

VII 猛禽類に関する文献の一覧（アルファベット順）

- 足立敏之, 大槻光雄 日本の河川事業における環境保全と猛禽類への対応 建設省河川局河川環境課, 水資源開発公団企画部環境対策 内容の概略: 日本の河川における猛禽類の生息状況, 管理ダムにおける希少猛禽類の生息状況を表示し紹介している. 環境影響評価の行ない方の紹介. 重要種並びに上位性を指標する種として選定し, 事業の与える影響について調査・予測・評価を行なう.
- 秋田県 1973 秋田県鳥類分布調査 (3) 内容の概略: 鳥海山でイヌワシが繁殖していることを確認. 巣の上にはノウサギの下半身とシマヘビ2尾があった.
- 穴田哲・村山美佳 1996 富山県西部におけるミサゴの繁殖状況. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 pp.45. 内容の概略: 1995~1996年に富山県西部におけるミサゴの繁殖状況を調査した. 繁殖成功率は1995年が64.3% (14巣), 1996年が75% (20巣), 巣立ち雛は1.07羽 (95年), 1.3羽 (96年) であった.
- 新木勝 1997 岡山県におけるオオタカ (*Accipiter gentilis fujiyamae*) の観察 兵庫野鳥の会鳥と自然第84号 p4-6 内容の概略: 岡山県でオオタカは県下全域で観察されるが, おもな繁殖地は県中部から北部にかけての盆地, 山地, 高原などで, 最近では県南部の平地, 丘陵地などでの観察記録も多くなってきている. 標高的には, 150-800mで300-500mに8割が集中している.
- 朝日新聞 1999 ワシ・タカと公共事業“紛争”—30都道府県で64件—朝日新聞 1999.6.28 内容の概略: 30都道府県で64件の開発と猛禽類の保護の対立が起きていることを記事にまとめた
- 渥美自然の会 1990 渥美の自然の講演会記録集 2 内容の概略: 武田恵世氏による講演「日本のタカ・小鳥の渡りのルート」の講演の記録あり
- 渥美自然の会 1993 渥美の自然の講演会記録集 4 内容の概略: 志村英雄氏による講演, ワシタカの渡り世界と日本の講演内容の記録
- 渥美自然の会 1994 渥美の自然の講演会記録集 5 内容の概略: タカの渡りについての講演のレジュメ集
- 渥美自然の会 1996 渥美の自然の講演会記録集 8 内容の概略: 渥美守久氏による愛知県初のハヤブサの繁殖記録の報告
- Ayers, L. W., Anderson, S. H. 1999 An aerial sight ability model for estimating ferruginous hawk population size *Journal of wildlife management*: 63(1): pp.85-97 内容の概略: 固定翼の飛行機を使った空中からの調査で, アカケアシノスリの正確な繁殖個体数の推定や発見率に影響を及ぼす要因を明かにし, 適切な調査方法の確立を目的とした研究. 発見率の有意な推定として営巣場所の種類や巣からの距離, 地形, 調査者の経験が得られた.
- 東淳樹・武内和彦・恒川篤史 1998 谷津環境におけるサシバの行動と生息条件 第12回環境情報科学論文集 1998, pp.239-244 内容の概略: 千葉県印旛沼流域鹿島川水系で, 1997年4月下旬から6月初旬にかけてサシバの分布および生息環境について調べた. また, 5月下旬から7月下旬にかけてラジオ・テレメトリ法で4羽の雄の行動追跡を行なった. サシバは, 谷津環境に生息していた.
- 東淳樹・時田賢一・武内和彦・恒川篤史 1999 千葉県手賀沼流域におけるサシバの生息地の土地環境条件 農村計画論文集 1999年11月 pp.253-258. 内容の概略: 千葉県手賀沼流域においてサシバの生息地の土地環境条件を明らかにすることを目的とした研究. 22カ所の調査地点のうち, サシバの生息が確認された地点は9カ所, 確認されなかった地点13カ所.
- Bechard, Marc J., Michael N. Shipman, James V. Younk Research Approaches Management of Raptors: Intensive and Extensive Approaches to the Study of Northern Goshawk Ecology. Boise State University. 内容の概略: 生存や繁殖にかかわる情報は, 個体識別やその後の追跡調査による個体の生息環境との関係の詳細な研究によって得ることができる. 1991年からアメリカ西部のネヴァダ州の山岳地域で, ヘリコプターを用いて繁殖状況を調査するとともにラジオテレメトリーや標識調査をした.

- Brazil, M.A. & Hanawa, S. 1991 The Status and distribution of Diurnal Raptors in Japan Birds of Prey Bulletin (4): 175-238 内容の概略: 日本に生息しているミサゴ, ハチクマ, トビ, オジロワシ, オオワシ, オオタカ, アカハラダカ, ツミ, ハイタカ, ケアシノスリ, ノスリ, サシバ, クマタカ, イヌワシの分布状況が記載されている。
- 茶村真一郎 1987 オジロワシ, シロハラウミワシの採食量調査 安佐動物公園飼育記録集 (15) 13-19 内容の概略: オジロワシでは7-9月, シロハラウミワシでは5-7月に採食量が減少する傾向があった。オジロワシが最も多く採食したのは2月前半の433 g, 少なかったのは9月前半の186 g。オジロワシ, シロハラウミワシともに, 魚を馬肉や初生雛よりもよく食した。
- 千葉晃・本間隆平 1998 新潟県沿岸部におけるオオタカの繁殖生態と営巣環境の現状。新潟県 内容の概略: 1991年から1997年で4から13巣が確認された。アカマツ林がもっともよく利用された。繁殖成績は2.9羽/年であった。食物はすべて鳥類でハト類が全体の60%であった。営巣環境の悪化が著しく, マツクイムシによる営巣木の枯死が深刻である。
- 千羽元一 1957 新潟県下に珍鳥 鳥第68号 p55-56 内容の概略: 昭和31年11月19日に新潟県南蒲原郡中之島村で♀のシベリアハヤブサ1羽が採集された。
- Daw, S.K., DeStefano, S. & Steidl, R.J. 1998 Does survey method bias the description of northern goshawk nest-site structure? Journal of wildlife management: 62(4): 1379-1384 内容の概略: オオタカの生息環境(大経木の密度や樹冠うっ閉率)は, 鳴き声のテープを流すなどで生息を確認する方法(systematic)と過去の生息や森林の様子などに基づいてオオタカの生息を確認する方法(opportunistic)から得られた結果を比較した。
- 道立環境科学研究センター 2000 ランドスケープレベルにおけるクマタカの潜在的生息地の推定とそのマップ化 内容の概略: 北海道で得られた94の目撃情報を基に, ランドスケープレベルにおけるクマタカの好適生息地を推定し, 北海道全域における潜在的な生息地をマップ化した。クマタカは環境選好性では, 標高が低く, 急斜面が少ないところをさけていた。
- 遠藤孝一 1997 渡良瀬遊水地における冬期のタカ類の個体数カウント Accipiter 3: 30-33 内容の概略: 1993年から1997年の5年間に冬期渡良瀬遊水地全域でタカ類のカウントを行ったところ, チュウヒ, ハイイロチュウヒ, トビ, オオタカ, ハイタカ, ノスリ, ハヤブサ, コチョウゲンボウ, チョウゲンボウの9種を記録した。トビを除く観察個体数の合計は40~77羽だった。
- 遠藤孝一 1999 日本オオタカネットワーク・ニュースレター: 「第9回オオタカ保護シンポジウム」開催 日本オオタカネットワーク 内容の概略: 平成11年3月7日に開催された日本オオタカネットワークのオオタカ保護シンポジウムのニュースレター。愛知万博予定地のオオタカ問題についての経緯の概況説明。
- 遠藤孝一 1989 オオタカ保護の現状と問題点 Strix 8: 233-247 内容の概略: オオタカの保護の歩みをまとめ, 棲息地の保全, 密猟対策, 調査研究などの現状と課題をまとめた。
- 遠藤孝一 1995 栃木県におけるオジロワシ・オオワシの越冬記録。Accipiter. 1: 7-18. 内容の概略: 栃木県においてオジロワシは6地点43例, オオワシは5地点40例の観察記録があった。中禅寺湖や足尾町では毎年1~3羽が越冬している。
- 遠藤孝一 1999 日本オオタカネットワーク・ニュースレター: 「第9回オオタカ保護シンポジウム」記録集 日本オオタカネットワーク 内容の概略: テーマは21世紀のオオタカ保護を考える。話題提供は遠藤孝一氏による「オオタカが希少種リストから外れる日を夢見で」
- 遠藤孝一・平野敏明. 2001. 宇都宮市の市街地近郊におけるサシバの繁殖状況の変化。Accipiter 7: 1-7.
- 遠藤孝一・平野敏明・君島昌夫・小堀政一郎 1995 渡良瀬川遊水地におけるチュウヒの冬場の観察について。1995年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集 pp.40. 内容の概略: 1994年2月から3月, 10月から1995年3月上旬まで渡良瀬遊水地でチュウヒの就峙行動を調査した。1995年1月16日には6カ所で合計26羽の就峙を確認した。チュウヒ

- の埒環境は草丈 30 ~ 60cm のイネ科植物が繁茂するヨシがまばらな場所であった。
- 遠藤孝一・平野敏明・植田睦之 1991 日本におけるツミ *Accipiter gularis* の繁殖状況 *Strix* 10: 171-179 内容の概略: ツミの繁殖は全国で記録されたが、関東地方近県のみで市街地での繁殖が認められた。この市街地での繁殖は 1981 年以降に記録されるようになった。
- 遠藤孝一・野中純・内田裕之 1999 育雛期以降におけるオオタカ成鳥の行動とつがい関係 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 内容の概略: ラジオトレッキングとカラーリングを用いた個体識別から雄は非繁殖期にも営巣地周辺にとどまるが、雌は巣立ち直後に営巣地を離れることがわかった。
- 遠藤孝一・野中純・内田裕之・君島昌夫・小堀政一郎・飯沼覚寿 1996 那須野ヶ原におけるオオタカの繁殖状況の変遷 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 pp. 154. 内容の概略: 栃木県那須野ヶ原における 1981 年-1999 年のオオタカの繁殖成功率、一腹卵数、巣立ち雛数、繁殖つがい密度を調査した。繁殖成功率は 74.9%。一腹卵数平均 3.3 卵 (N=48)、巣立ち雛数 2.35 羽 (N=194)。
- 遠藤孝一・内田裕之・野中純 1999 求愛造巣期におけるオオタカ雌の行動 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 内容の概略: 栃木県那須野ヶ原で雌成鳥 5 羽に小型発信機をつけて行動を追跡した。求愛造巣期の最外郭行動圏の大きさは 120ha ~ 2311ha であった。求愛造巣期の前半は特定の営巣地に執着する一方で長時間の帆翔飛行、遠出行動、隣接営巣地へ出かけた。
- 榎本佳樹 1922 イヌワシの飛翔に就て 鳥第 12 号・第 13 号 内容の概略: イヌワシの飛翔形態を低空や高空にわけて説明し、ほかの種との識別法を報告している。
- 榎本佳樹 1938 クマタカの飛翔時の形態と野外識別 野鳥 (52) 内容の概略: クマタカのほかの猛禽類との翼の形の違いと識別の仕方。
- 榎本佳樹 1939 イヌワシの野外識別其他に就いて 野鳥 (58) 内容の概略: イヌワシとその他の猛禽類の野外での識別方法について
- フランク クールマン 1987 The Demise of the Black-eared Kite *Milvus migrans* in Kobe, Japan. *Jap. J. Ornithol.* 36: 79-86. 内容の概略: 神戸市中央区の住宅地に接する調査地で 1975 年から 1987 年にかけてトビの個体群調査を行なった。巣の数は、1978 年の 15 から次第に減少し、1987 年には 3 巣となった。トビの営巣失敗と個体数の減少はハシブトガラスの捕食によるところが大きい。
- 藤井 1981 タカの渡り IN NAGOYA 内容の概略: 1980 年、1981 年の名古屋市でのタカの渡り調査の記録
- 日本野鳥の会・藤井清彦 1982 鷹の渡り 内容の概略: サシバが太平洋岸を四国九州を経由して南西諸島にわたるといふ図鑑的な記載と、1980、81 年の名古屋の渡りの記録
- 藤巻裕蔵 1999 北海道のクマタカとオオタカ 北海道猛禽類研究会 内容の概略: クマタカは北海道では渡島半島、後志・石狩・胆振支庁界の山地、夕張山地、増毛山地、日高山脈、大雪山系、白糠丘陵、阿寒国立公園、知床半島、天塩山地の森林に生息し、計 65 カ所で少なくとも 32 つがいが推測されている。
- 藤田雅彦 1987 鈴鹿山脈クマタカ調査 かいつぶり (14): 2-8 内容の概略: クマタカの鈴鹿山脈での行動圏は 21.125m² で、鈴鹿山脈全域で 34 つがいの生息が推定された。鈴鹿でクマタカは 3 月下旬に産卵し、4 月下旬から 5 月下旬に雛がふ化するようである。巣はモミあるいはマツの大木で、直径 1 m をこえるもの。巣作りは 2 ~ 3 月。
- 藤田雅彦・山崎亨・井上剛彦 1993 鈴鹿山脈におけるクマタカの営巣環境 日本鳥学会大会講演要旨集 1993 pp. 51. 内容の概略: 営巣木は、生息地域の最低標高と最高標高の間の低い位置 (平均 27%, 最高 49% の高さ) にあった。樹冠を形成する高木間や、高木層と中・高木層との間にクマタカが飛行できる間隙があり、林床部の植生が疎であることが共通していた。
- 福井光次 1937 満州の稀鳥類其他 鳥 45: 487-490 内容の概略: シベリアハチクマの幼鳥の報告
- 福井県自然保護センター 1993 渡り鳥保全調査報告 *Ciconia* 2: 1-13 内容の概略: 保全が必要な種のリストとして、猛禽類もあがっている。

- 福井県自然保護センター 1995 希少猛禽類（イヌワシ）保護管理調査報告書 内容の概略：1990年9月から1995年1月にかけて、福井県のイヌワシの状況、生態を明らかにするために、情報収集と現地調査を実施した。アンケート調査で得られた生息情報は4kmメッシュで81か所存在した。そのうち62ヶ所で現地調査で生息が確認された。
- 古川弘・山本明 1878 ミサゴの営巣とその観察—上越市正善寺奥— 内容の概略：1977年に上越市正善寺の関川の支流である正善寺川の上流の尾根筋にあるミサゴの巣を観察した。巣はアカマツの木の先端部にあった。巣は途中で放棄され、営巣には成功しなかった。つがいとは別の個体が巣まで入って来たことを観察している
- ゴードン、シートン（大原総一郎訳） 1973 イヌワシの生態原題：The Golden Eagle King of Birds. 平凡社 内容の概略：イヌワシのスコットランドでの生態について書かれた本
- 群馬県職員自主研究グループ 1980 特定鳥類研究会調査報告書（I） 内容の概略：県内の河川沿いを踏査し、繁殖すると考えられる崖で30分から1時間とどまり、チョウゲンボウの分布の確認に努めた。その結果、全県的に分布していることがわかり、9カ所で繁殖を確認した。その他、繁殖の観察記録も記載されている。
- 蜂須賀正氏 1940 White-breasted Sea eagle in the Philippine Islands. 鳥(50): 721-722 内容の概略：1936年にフィリピン諸島の島で撮影されたWhite-breasted Sea eagleの巣の写真について報告した。12月に繁殖しているのは珍しいと述べている。
- 芳賀良一 1955 北海道網走におけるオジロワシ蕃殖の一例 鳥第65号 p39-43 内容の概略：1954年5月6日に北海道網走市音根内で2羽の雛のいるオジロワシの巣を観察した。巣にはバンやホッケ、ボラの餌動物が運ばれていた。
- 芳賀良一 1957 北海道根室（花咲）半島におけるオジロワシの蕃殖について 鳥第69号 p18-22 内容の概略：北海道道東におけるオジロワシの繁殖調査。1955年に根室半島の音根沼付近と牧の内付近で各1巣を観察した。
- 濱伸二郎 1996 藤沢市西俣野で繁殖したチョウゲンボウ Binos 3: 29-33 内容の概略：1988年、1989年2年とも年2回の繁殖が見られ、1回目と2回目で巣場所をかえた。食物はおもに雄がとってきた。食物はスズメが主で、その他はネズミ類やアブラゼミなどだった。
- 花輪伸一・樋口行雄・高良武信 1985 八重山群島におけるカンムリワシの生息状況 環境庁委託特殊鳥類調査 p1-28 内容の概略：1984年6月から1985年3月にかけて西表、石垣、与那国島でカンムリワシの調査を行なった。西表島では海岸沿いの平地に連続して分布していたが、石垣では局所的に、与那国では確認することはできなかった。石垣に生息するカンムリワシは10-16羽と推
- 花輪伸一・柚木修・山田元一郎・Khrabryi, V.M.・Sokolov, E.P.・Fokin, S.I.・Mastterov, V.M. 1989 ソ連極東ウディル湖畔におけるオオワシの繁殖生態 Strix 8: 219-232 内容の概略：オオワシの主な食物は魚類で、カワカマスが多かった。
- 羽田健三・北沢善政 1983 長野県下におけるチョウゲンボウの繁殖地の分布と生息状況 長野県下における特殊鳥類調査報告書 p25-35 内容の概略：1977-79年に東北信地方の主な集団繁殖地においてチョウゲンボウの繁殖状況を調査し、あわせて県下の繁殖地の分布と生息数を調査した。23カ所で繁殖を確認した。20年前に大規模な集団繁殖地を形成していた場所では現在繁殖していったか個体数がい
- 原戸鉄二郎 1987 西表島におけるカンムリワシの食性と巣立ちビナの行動 沖縄島嶼研究 5号 49-58 内容の概略：西表島東部のカンムリワシの巣周囲で食性および行動について1985年7月に調査した。巣はリュウキュウマツの地上3.6mの位置にあった。一腹卵数は2で1羽のみが巣立った。食物としてミミズ、オカヤドカリ、カニ、直翅目昆虫、魚、カエル、ヘビ、トカゲ、ネズミ。
- 長谷川雅美・浅田正彦・谷口薫美・黒野博之 1996 北伊豆諸島におけるサシバ *Butastur indicus* の行動圏の分布. Jpn. J. Ornithol. 45: 83-89. 内容の概略：北部伊豆諸島では、サシバの行動圏の数は島の面積と地形の複雑さが増すとともに増える傾向が認められ、行動圏の位置は谷地形の分布と良く一致するよう思われた。
- 畑俊一 1994 横浜市内の住宅地で27年間に観察された鳥類の増減 Binos 1: 1-5 内容の概略：ツミが1967年から1993年にかけての鳥類の観察から、ツミが分布するようになったこと、アオバズクが減少していなくなったことを記載。

- 波多野幾也 1999 樹上に設置した人工巣へのオオタカの営巣. Jpn. J. Ornithol. 47: 119-120. 内容の概略: 巣の落下したオオタカの営巣地に2か所のモミの木に人工巣を設置したところオオタカにより使われた.
- 林光武・安井さち子・佐藤光一 1996 サシバ *Butastur indicus* によるヒグラシ *Tanna japonensis* 幼虫の捕食例. Jap. J. Ornithol. 45: 39-40. 内容の概略: 1987年9月13日に保護され、後死亡したサシバの若鳥の胃内容物を調べたところ、セミの幼虫が少なくとも11個体が食べられていた。6個体は雌のヒグラシであった。
- 林武雄 1975 クマタカの密猟について 山階鳥類研究所研究報告 7(5): 566-567 内容の概略: 昭和48年2月に福井県で銃獲されたクマタカの経緯.
- 日高敏隆 (監修) 1996 ハイタカ類 日本動物大百科 (全11巻) 第3巻鳥類I. 平凡社. 内容の概略: オオタカの繁殖地は標高500m以下の平地から丘陵地, 低山である。1~3月が求愛・造巣期。産卵時期は4~5月。抱卵期間は35~38日。ふ化後35~40日で巣立つ。行動圏の大きさは数百~1000ha程度。獲物は日本では鳥類が92%以上, 哺乳類は7%弱。
- 樋口孝城・広川淳子・浜田強 1999 北海道石狩川下流域におけるチュウヒの繁殖状況 山階鳥研報 31:103-107 内容の概略: 石狩川下流域のチュウヒの繁殖分布について調査した。営巣場所は河川敷内のヨシ原が多く, 河川敷外のササ原にも記録された。
- 樋口行雄・武田宗也 1983 ニホンイヌワシの分布と生息地の現状に関する調査報告 環境庁特殊鳥類調査 p77-91 内容の概略: アンケート調査の結果, 1981年と1982年に記録があったのは, 北海道から九州にかけての24道府県で, 東北地方から中国地方東部に集中しており, 四国からは記録が得られなかった。
- 平野敏明 1993 町にいきるツミ アニマ (246): 61-64 内容の概略: 1980年代にツミは町で繁殖するようになった。町でツミはアカマツに営巣し, スズメを多く食べている。これらの小鳥が多いことが町で繁殖できるようになった原因だろう。
- 平野敏明 1994 繁殖期におけるツミ *Accipiter gularis* の鳴き声活動と空中ディスプレイについて Strix 13: 31-39 内容の概略: 栃木県宇都宮市の住宅地周辺の環境で, 1993年, 1994年のそれぞれ3月から7月にかけて, ツミ *Accipiter gularis* の鳴き声活動と空中ディスプレイの調査を行なった。
- 平野敏明 1998 住宅地で観察されたツミの2回目繁殖行動について Strix 16: 167-170. 内容の概略: 1988年から約10年, 栃木県宇都宮市の住宅地周辺で本種の繁殖状況を調査しており, 毎年7つがい前後を観察しているが, それらの中から2回目の繁殖を試みたつがいと, 抱卵期に失敗したあとつがいの相手を変えて再営巣した雄の例を観察した。
- Hirano T. 1999 Displays of Japanese Lesser Sparrowhawks during Pre-laying Period Jpn. J. Ornithol. 48:157-160. 内容の概略: ツミの繁殖初期の雌雄間の行動として尾上げディスプレイと翼震わせディスプレイが観察された。おもに雄が雌に対して行なった。尾上げディスプレイのおもな機能は雌を営巣場所へ引き付けるとともに, 雌の造巣行動を促すと考えられた。
- 平野敏明 2000 ハンガーを巣材に使用したツミ Strix 18: 137-139. 内容の概略: 1999年の繁殖期に巣材にハンガーを利用した1つがいのツミを観察した
- 平野敏明 2001 住宅地周辺で繁殖するツミとカラス類の緑地の利用状況について Strix 19: 61-69 内容の概略: 栃木県宇都宮市の住宅地の公園や学校敷地などの小規模な緑地5か所で, 1996年から2000年の2月下旬から6月に, カラス類とツミの営巣地における関係を明らかにするために, ツミとハシボソガラス, ハシブトガラスの営巣地の利用頻度を調べた。
- 平野敏明・遠藤孝一・君島昌夫・小堀政一郎・野中純・内田裕之 1998 渡良瀬遊水地における秋冬期のチュウヒのねぐら Strix 16: 1-15. 内容の概略: 栃木県藤岡町渡良瀬遊水地で1994年10月-1995年3月, 1995年10月-1996年3月, 1996年10月-1997年3月の3越冬期にチュウヒのねぐら入り個体数, ねぐら環境について調査を行なった。チュウヒのねぐら入りの時刻は, 多くは日没から日没後30分以内であった。
- 平野敏明・金井裕・君島昌夫・小堀政一郎 1999 渡良瀬遊水地におけるサシバの採食環境と食物 日本鳥学会1999年度大会講演要旨集 内容の概略: 渡良瀬遊水地という平坦なヨシ原環境におけるサシバの採食環境と食物の調査。調査地では堤防環境が重要な採食環境となっており, ヨシ原はほとんど利用されなかった。食物はカエル類やトカゲ類のほかネズミ類をよく捕食した。
- 平野敏明・君島昌夫 1992 宇都宮市の住宅付近におけるツミ *Accipiter gularis* の繁殖状況と食物 Strix 11: 119-129 内容の概略: ツミの繁殖つがい数は宇都宮市の住宅地において, 1990年から1992年にかけて増加した。営巣木はアカマツが多く, 食物はスズメが多かった。住宅地は森

林地帯に比べて小鳥の生息数が多かった。ツミはスズメを食物とすることで住宅地へ繁殖分布を広げたと考えられた

- 平野敏明・安井さち子 2001 渡良瀬遊水地周辺における冬期のチュウヒの食性 Strix 19: 43-47
内容の概略: ペリット分析によって、渡良瀬遊水地のチュウヒの食性を解析した。羽毛からなるペリットと獣毛からなるペリットは半々で、識別できたものの中では、鳥類はカモ類が多かった。ほ乳類では、ハタネズミが多かった。
- 北海道生活環境部自然保護課 1981 知床半島自然生態系総合調査報告書 (動物偏) 内容の概略: オジロワシ, オオワシ, シマフクロウについての営巣地, 生息状況についての記載あり
- 本間隆平 1995 オオタカの繁殖状況について 野鳥新潟第 95 号 p2 内容の概略: 1991 - 1993 の調査で、新潟でオオタカの営巣地は新潟市, 北蒲原郡および岩船郡の海岸の松林が中心になっていることがわかった。7 巣の調査の結果, 1995 年の繁殖成功率は 1.7 であった。繁殖地は道路やゴルフ場建設などによって脅かされつつある
- 細野哲夫・中村公義 1995 長野市におけるチゴハヤブサの初繁殖例 山階鳥研報 27:89-91 内容の概略: 長野市のゴルフ練習場の網を支える鉄柱にあるカラスのものと思われる古巣にチゴハヤブサが繁殖した。食物としてコウモリ類, アマツバメ, ツバメ, イワツバメ, ヒヨドリ, ヤマガラ, メジロ, スズメ, アキアカネを記録した。
- 細野哲夫 1958 信州北佐久地方に於けるチョウゲンボウの新繁殖地二例 野鳥 23(1): 5-9 内容の概略: 長野県小諸市平原十石坂と北佐久郡浅間町の金竜寺崖で新たなチョウゲンボウの営巣地を新しく発見した。
- 細野哲夫 1961 十三崖のチョウゲンボウ及びその他の鳥類の数の季節変動 鳥 16(77): 27-34
内容の概略: 長野県中野市十三崖におけるチョウゲンボウの個体数の年間の変化を調査した。1954 年の繁殖期の成鳥の最大羽数は 36 羽で営巣数は 12 巣であった。
- 細野善熙 1950 十三崖のチョウゲンボウ 野鳥 15(6): 1-6 内容の概略: 1949 年にチョウゲンボウがたくさんいたことを記載。食物としてホオジロ, モグラ, ネズミをあげている
- 細野善熙 1952 十三崖のチョウゲンボウ 野鳥 17(3): 26-28 内容の概略: 巣穴および卵のサイズが記載されている。
- 日向郁夫 1957 山梨県韮崎市附近におけるチョウゲンボウの蕃殖について 鳥 14 (68): 17-24
内容の概略: 山梨県韮崎市におけるチョウゲンボウの繁殖状況について報告したもの。1955 年 4 月に鷹の巣断崖では 17 巣の繁殖を確認した。
- 日向郁夫 1958 チョウゲンボウの新繁殖地 野鳥 23(6): 24 内容の概略: 山梨県岩殿山でチョウゲンボウの新しい繁殖地を発見した。
- 市橋秀樹・Jerzy FALANDYSZ・河野公栄 1996 ポーランド産オジロワシ *Haliaeetus albicilla* の元素蓄積。1996 年度日本鳥学会大会講演要旨集 pp. 47. 内容の概略: バルト海南西部で繁殖するオジロワシ個体群から死亡した 12 羽の元素分析を行なった。筋肉 (胸, 脚), 肝臓, 腎臓について, 40 元素以上について分析した。いくつかの金属元素では高い濃度レベルがみられた。
- 市川昌徳 1937 熊鷹を剥製して 野鳥 (36) 内容の概略: クマタカの体サイズの計測値がのっている。尺貫法で。
- 飯田知彦 1999 Predation of Japanese Macaque *Macaca fuscata* by Mountain Hawk Eagle *Spizaetus nipalensis*. Jpn. J. Ornithol. 47: 125-127. 内容の概略: 状況からクマタカがニホンザルを捕食した例の記載
- 池田善英・須藤一成・真崎健 1992 石川県加賀地方におけるハチクマとオオタカの繁殖初記録 Strix 11: 353-355 内容の概略: 加賀地方の二次林でハチクマの巣をスギに, オオタカの巣をアカマツに確認した。
- 池田翔・米川洋・出原金生・舟倉聡 1997 鳥類の繁殖生態研究におけるビデオ機器の運用 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告第 19 号 P97-104 内容の概略: 小型 CCD カメラのメーカー, 野外で使用するための防水ケースの作り方, 録画システムの作り方など, 野外での監視システムの使い方が書かれている。
- 池田善英 1984 イヌワシ幼鳥の着陸に関する一観察—死亡要因としての着陸失敗についての考察— Aquia chrysaetos (2): 7-8 内容の概略: イヌワシの巣立ちピナが着陸に失敗して, 枝に引っかかってぶらさがってしまった事例を紹介。飛翔能力が未熟なうちに, このような原因で死亡してしまう可能性を示唆。
- 池田善英 1986 白山山系におけるイヌワシの抱卵・抱雛行動の妨害例 Strix 5: 112-115 内容の概略: 抱卵, 抱雛の妨害例として人間の接近, ヘリコプターの接近, ノイヌの吠え声あげら

れた。

- 池田善英 1988 敗血症によるイヌワシ巢内雛の死亡例。 日鳥学誌 37: 39-41. 内容の概略: 石川県下白山山系でイヌワシの雛 2羽が巢内で死亡した。34-36日齢と推定される1羽の死亡原因は敗血症と判断された。
- 池田善英 1989 イヌワシ巢立ちビナにみられた模擬攻撃行動 Strix 8: 284-285 内容の概略: イヌワシで見られた樹木に対する模擬攻撃例を記載した。
- 池田善英 1994 富山県におけるイヌワシの繁殖生活と現状 グルーミング 4(4). 富山市ファミリーパーク公社 内容の概略: 少なくとも富山県には28つがい、石川県に21つがい、福井県に12つがいのイヌワシが生息している。国内のイヌワシの1つがいの平均行動圏は60km²程度である。白山では食物の35%がヘビ、27%がウサギ、20%がヤマドリであった。
- 池田善英 1996 石川県におけるワシタカ類の現状 「いしかわ人は自然人」(34): 31-33. 内容の概略: 石川県ではイヌワシやクマタカなどについては以前から調査が行なわれていたが、里山に住む猛禽類についての調査はあまり進められて来なかった。それがアセスメント調査によって明らかになってきた。ミサゴは能登半島を中心に河口付近で普通に見られる。
- 池田善英・堀本尚宏・真崎健 1994 クマタカ放棄巢にサシバが営巣 Strix 13: 230-233. 内容の概略: 富山県西部の小矢部川水系で1993年3月にクマタカの営巣をはじめ確認した。1994年2月には、庄川水系で県西部では2例目の営巣を確認した。この営巣地は4月はじめに放棄されたが、5月はじめにはまったく同じ巢でサシバの営巣が観察された。
- 池田善英・井上陽一・須藤一成・夜久保徳・安田亘之・久保上宗次郎・遠間真弓 1990 若狭湾における営巣ハヤブサの狩猟行動と給餌行動 Strix 9: 15-22 内容の概略: 若狭湾のハヤブサの採食行動を調査した。とまり場所は、すべて巢から300m以内にあり、半数以上が尾根のクロマツだった。おもに渡り途中のヒヨドリを捕食し狩猟行動圏は5.6km²だった。
- 池田善英・小嶋明男・松村俊幸 1992 福井県和泉村において観察されたハチクマの秋の渡り Ciconia 1: 23-27 内容の概略: 1991年9月22~23日にハチクマを主としたワシタカ類の渡りを観察した。2日で99羽の渡りが観察された。
- 池原貞雄 1975 標識法によるサシバの渡りに関する調査概況 沖縄県立自然公園候補地学術調査報告 129- 内容の概略: サシバへのバンディングによる渡り経路の調査について
- 池野進 1992 サシバ調査 五斗蒔だより 3(7). 内容の概略: 茨城県穴塚大池でのサシバの分布把握のための探鳥会の記録。2つがいと1若鳥が生息していることが明らかになった。
- 井上賢三郎 1997 九州北西部における春のサシバの渡り Strix 15: 130-132. 内容の概略: サシバの渡りに関する経路が、南西諸島を北上して九州南部に入る経路以外にもあるのではないかと考え、熊本県北西部におけるサシバの渡り経路について調査を行なった。熊本県金峰山では、数は少ないながらも定常的に北から南への渡りがあることが確認された
- 井上勝巳 1998 長崎県五島列島福江島を秋期に渡るタカ類 Strix 16: 109-120. 内容の概略: 1997年9月20日から10月10日までの21日間に13,769羽を記録した。日本国内の1調査地点で記録された渡り個体数の最大であり、福江島がハチクマの主要な渡り経路であることが確認された。
- 井上勝巳 1998 春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ Strix 16: 171-174. 内容の概略: 長崎県対馬でハチクマとサシバの春期の渡り調査を実施した結果、これまでには認識されていない、対馬を経由して南下する渡り経路を確認した
- 井上剛彦・山崎亨・藤田雅彦 1993 クマタカの個体群構造解析の試み。 日本鳥学会大会講演要旨集 1993 pp. 50. 内容の概略: 1985年から1993年までの8年間で、鈴鹿山脈の775・の範囲で30ペアのクマタカを確認した。ペアの行動圏の中心地でもペア以外の複数の個体が利用した。
- 犬飼哲夫 1954 鳥の食べ物—エゾヤマドリ及び白鳥等— 野鳥 (164) 内容の概略: シロフクロウの食物としてイタチの雌1匹とエゾヤチネズミ2匹を確認 ケアシノスリの食物としてウチダハタネズミを確認した
- 石部久 1988 小さなハヤブサの飛ぶ街都市で繁殖するチョウゲンボウ 大日本図書 内容の概略: 子供向け写真集。コウモリをたくさんとることを記載してある。
- 石川県白山自然保護センター 1983 イヌワシの生態 白山の自然誌 4, 石川県白山自然保護センター 内容の概略: イヌワシは石川県中南部の産地に広く分布している。少なくとも44羽が生息しており、幼鳥などを含むともっと多い。行動圏は白山の4カ所の調査から、17-31km²であることがわかった。海外では23-172とさまざまな報告がなされている
- 石川県白山自然保護センター 1994 20年のあゆみ 内容の概略: 昭和60年度から平成元年度に

- イヌワシ, クマタカ, オオタカの調査を行なったことを記載
- 石川県自然保護センター 1993 クマタカとイヌワシ 白山の自然誌 13, 石川県白山自然保護センター 内容の概略: イヌワシは石川県内では金沢以南の山地に分布し, 約 20 カ所に約 40 - 50 個体が生息. クマタカはよくわかっていない. 巢はイヌワシは崖につくり, クマタカはアカマツやクリにつくる. 一般に針葉樹が多いと考えられている.
- 石沢慈鳥・千羽晋示 1967 日本産タカ類 12 種の食性 山階鳥類研究所研究報告 5(1): 34-47. 内容の概略: ハヤブサ, チョウゲンボウ, ノスリ, クマタカ, チュウヒ, ハイタカ, ツミ, オオタカ, サシバ, トビ, ハチクマの 12 種, 221 個体の胃内容物による食性の記載
- 石沢健夫 1923 イワツバメ及びケアシノスリに就て 鳥第 15 号 内容の概略: 山形県長崎町付近で捕獲されたらしい標本がケアシノスリであることを報告した. また, 大正 11 年 1 月 12 日に山形市内でケアシノスリの死体を購入した.
- 石沢健夫 1927 鳥雑記 鳥 (23): 293-300. 内容の概略: 山形県にて捕獲されたケアシノスリがトウホクヤチネズミを摂食していたことを報告したもの.
- 伊藤正清 [写], 松田忠徳 [文] 1986 ハヤブサの四季 (科学のアルバム 89) あかね書房 内容の概略: 子供用写真集. 室蘭のハヤブサの生態や行動に関する記載あり.
- 伊藤正美 1991 宗谷岬におけるオオワシとオジロワシの渡り状況 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成 2 年度一 内容の概略: 1990, 91 の春季, 85 の秋期に北海道の宗谷岬でオオワシの渡りを調査した. 1990 は 362 羽, 1991 は 621 羽のオオワシを確認した. 1985 は 590 羽を確認し, 一日の最大は 234 羽だった.
- 伊藤良昭 1969 クマタカとカケス 野鳥 (275): 3-4 内容の概略: クマタカがカケスを襲った状況の記録
- 岩見恭子 1995 十勝地方におけるトビの営巣環境と繁殖成績. 1995 年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集 pp. 45. 内容の概略: 1993 年と 1994 年に十勝平野の面積 748・で, 営巣場所別の繁殖成績を比較した. 繁殖成功率は, 孤立林で 71%, 防風林で 67%であった. 平均胸高直径が 20cm 以上の林では 76%, 20 未満の林では 58%であった. 立木密度が低くなるほど繁殖成功率は高くなった.
- 岩見恭子 1996 Some Prey Items of Three Species of Hawks (Goshawk *Accipiter gentilis*, Sparrowhawks *A. nisus* and Buzzard *Buteo buteo*) in Tokachi District, Eastern Hokkaido. Jap. J. Ornithol. 45: 37-38. 内容の概略: オオタカはドバトやキジバトを捕食し, ハイタカはカッコウを, ノスリはエゾライチョウのほかスズメ目鳥類の巢内雛を捕食した.
- 岩見恭子 1996 北海道十勝地方からのトビ幼鳥の分散 鳥学会要旨 内容の概略: 北海道十勝地方でトビの巢内ビナにウィングマーカを付けて分散の調査をしたところ, 本州中部などでも観察された. また, 営巣地近くでも観察され, 北海道以外で本州にも分散していることがわかった.
- 岩見恭子・池田翔・山崎里実 1998 高圧線鉄塔でのトビの営巣例 Strix 16: 160-162. 内容の概略: 北海道石狩市において高圧線の鉄塔で繁殖しているトビが確認された
- 岩田久人・渡辺真文・田辺信介ほか 1997 知床半島に飛来したオオワシの有機塩素化合物汚染 知床博物館研究報告第 18 集 1-7 内容の概略: 知床半島で死体回収したオオワシ 3 羽から, 高濃度の PCB が検出された
- 岩手県環境保健部 1993 特殊鳥類生息実態調査報告書 野生鳥獣保護調査事業. 第 2 期調査 内容の概略: イヌワシ, クマタカ, オオタカ, ハヤブサ, オオワシ, オジロワシの岩手県における生息状況の記載と保護管理の意義についての記載.
- 住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 1994 八王子川口地区オオタカ生態調査報告書 内容の概略: 八王子市の川口地区には少なくとも 4 羽の成鳥と 3 羽の若鳥が生息している. 目視調査の結果によると行動圏は非繁殖期に広く繁殖期, 特に 6 月に狭い. 開発計画地で最も高頻度で観察される. 食痕とペリットの分析の結果, オオタカの食物はドバトが 35%とおおかつた
- 加賀崎武 1962 Pellet を産座に敷くチョウゲンボウについて 鳥第 79 号・第 80 号 p191-197 内容の概略: 長野県松本市中山丘陵の崖に営巣するチョウゲンボウのなかにペリットを産座に敷くつがいがいることを報告した. 6 巢でペリットを使用した.
- 鶴いしい 1990 枯野の猛禽 阿知須干拓 いしい T・I アート 内容の概略: 写真集. チュウヒ, ハイイロチュウヒ, コミミズク, ケアシノスリ, ノスリ, オオノスリ, ハヤブサ, チョウゲンボウ, コチュウゲンボウ
- 鎌倉自主探鳥会グループ 1987 鎌倉自主探鳥会グループによるタカ類の調査報告 内容の概略:

- サシバの渡り経路には三浦半島西岸に沿って海上を移動し葉山沖を経て稲村が崎に至る経路と小田和湾から相模湾を横断して直接、稲村が崎付近に集まる経路がある。
- 上馬康生 1989 白山地域のクマタカの行動圏と行動様式 石川県白山自然保護センター 第16集 23-28 内容の概略: 1985 / 4 ~ 1988 / 12 まで白山北部の手取川上流域でクマタカの行動を調べた。隣接個体とのあいだで、波状飛行によるディスプレイや攻撃がみられた。行動圏の面積は少なくとも 11.7km²あり、稜線を境界としていた
- 神奈川新聞 1981 タカトリ山はタカの通り路解明された“空白の関東街道” 神奈川新聞 1981.10.25 内容の概略: 新聞記事: 房総半島から三浦半島を抜け箱根方面へと移動するサシバの渡り経路がわかったことを報告
- 神奈川野生生物研究会 2000 神奈川猛禽類レポート 内容の概略: 目次 神奈川県のタカ類 丹沢山地におけるクマタカの生態と保護 神奈川県におけるオオタカの生息状況と保護問題の変遷 神奈川県のオオタカとその保護方策 矢倉岳のサシバの渡り 大磯・京浜・三浦地域における春季タカ類の渡り 神奈川県立自然保護センター周辺のサ
- 金井裕・源文吉・小坂正俊 藤沢市に生息するオオタカの行動圏。 内容の概略: 神奈川県藤沢市内の丘陵地におけるオオタカの調査。営巣地を中心に東西南北 2km 四方の範囲で目視によって調査した。観察された行動圏は、1辺 100m メッシュにして最大 336 メッシュであったが、実際はさらに広いと考えられた。行動圏内の利用頻度の高い場所は、営巣
- 金井裕・佐藤文雄・三田長久・中川元・植田陸之・J. Minton・E. G. Lobcov 1995 オオワシの渡り経路の調査。 1995 年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集 pp. 88. 内容の概略: 1995 年 2 月にオオワシ 7 羽に人工衛星用の送信機をつけて渡りの経路を追跡した。根室で越冬するオオワシの多くは、稚内からサハリンにわたり、サハリンを北上して、サハリンの北部やオホーツク海沿岸で夏を越すが、カムチャッカ方面へ移動する個体もいた。
- 金井裕、平野敏明 1999 渡良瀬遊水地における越冬期のチュウヒの行動圏 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 内容の概略: 目視によるチュウヒの行動圏調査。飛行回数とヨシの高さや生育密度との関係はみられなかった。ただし、特定の個体の追跡からチュウヒは、ヨシ原を生息環境としているが採食場所として水路脇や道路など地表が現われている場所が重要と考えられる。
- 金井裕・中川元 1991 北海道東部における厳冬期のオオワシとオジロワシの生息分布 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成 2 年度一 内容の概略: 1991 年 1 月 23 日から 28 日まで釧路から根室、知床、紋別にかけてオオワシの生息状況を調査した 264 羽のオオワシ、118 羽のオジロワシが記録された。分布は羅臼周辺に集中していた。釧路では羅臼や根室に比べてオジロワシの占める割合が高かった。
- 金井裕・中川元・本村健・樋口広芳 1991 羅臼町海岸のオオワシとオジロワシの休息場所の特性 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成 2 年度一 内容の概略: オオワシとオジロワシの主要な越冬地の羅臼周辺で調査を行なった 休息場所は羅臼港からモセカルベツ川河口と相泊周辺に集中する傾向が見られた。休息に用いる斜面の方位は北西の風が強い時は、風下の東向き斜面に偏る傾向があった。
- 金子紀子 1996 アオバズクの繁殖に影響する人間の行動 Binos 3: 9-15 内容の概略: 1989 - 94 までのアオバズクの繁殖の観察記録 1991 年からストロボ撮影する人が増えた。1992 年の巣立ち通常より 5 日も早く、雛の巣立ち以前に食べられていない食物が散乱しているなど異常が認められた。
- 環境庁 1982 カンムリワシ: 八重山群島における生息状況 環境庁特殊鳥類調査 内容の概略: 1982 年 2 月 6 日から 14 日に西表島、石垣島、与那国島でカンムリワシの生息状況調査を行なった。西表島では約 85 羽が森林と隣接する湿地帯に生息することがわかった。石垣では 9 羽観察されたのみで、与那国では観察されなかった。
- 加藤晃樹・伊吹恒・山崎亨・藤田雅彦・井上剛彦・真崎健・細井忠・一ノ瀬弘道 1993 ウイングマーカー装着によるイヌワシ幼鳥の分散調査。 日本鳥学会大会講演要旨集 1993 pp. 49. 内容の概略: 1993 年滋賀県北部でイヌワシの巣内ビナ 1 羽にウイングマーカーを付けた。ヒナは巣内で巣立ち日令の 80% の時期に捕獲した。マーカーは、ビニールコーティングされたナイロン布を使用した。
- 河地辰彦 2000 稼働中のクレーン内に営巣したチョウゲンボウ *Falco tinnunculus* Accipiter 6: 1-5 内容の概略: 大田原市の工場の稼働中のガントレークレーンで 1998 年には 3 つがい、1999 年には 1 つがいが繁殖した。

- 河地辰彦. 2001. 栃木県矢板市山田地区におけるチョウゲンボウの繁殖記録. *Accipiter* 7: 9-15.
- 川口孫治郎 1916 ノスリの繁殖 鳥第3号 内容の概略: 飛騨高山付近の山中で5月上旬にノスリの巣を観察した. 巣内には3卵あった. 観察後21日目に孵化し, 3雛が確認された.
- 川口孫治郎 1930 ミサゴ *Pandion haliaetus haliaetus* Lに関する実験観察 鳥獣彙報 1(3): 24-46 内容の概略: ミサゴに関して名前の由来からいろいろなことが書かれている. 残念ながら, 昔の文章でよくわかんない.
- 川崎康弘 1997 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類 知床博物館研究報告 18集 19-34 内容の概略: 記録鳥類のリストの中に, オオワシやハイイロチュウヒなどの猛禽類の記載もある
- 風間辰夫 1973 新潟県におけるイヌワシの分布と保護対策について 山階鳥類研究所研究報告 7(1): 104-112. 内容の概略: 新潟県におけるイヌワシの生息状況について, 10年間のへい死個体から推測した. へい死個体が他の都道府県より多く, 死因の具体的な調査など保護対策が必要. 生息地は高山ではなく低山である.
- 風間辰夫 1981 粟島における希種の渡来について 山階鳥類研究所報告 13(2) 内容の概略: ハヤブサの繁殖の可能性を示唆している
- 風間辰夫 1984 カラフトワシ新潟で初記録 山階鳥研報 16:170-171 内容の概略: 新潟県西蒲原郡の海岸に打ち上げられたカラフトワシの死体の記録
- 風間辰夫 1985 新潟県における猛禽類の傷病死鳥 山階鳥研報 17:166-172 内容の概略: 傷病鳥はトビが最も多く, つづいてフクロウが多かった. 死体も同様にトビが最も多く, つづいてフクロウが多かった. 回収された直接的な原因は栄養失調による衰弱が多かった.
- 風野鉄吉 1933 台湾産野獣種野鳥類に就いて 鳥第37号 p148-152 内容の概略: 台湾で昭和7年から8年にオオフクロウ, ハヤブサ, クロケアシノスリ, サシバを捕獲した.
- 風野鉄吉 1938 台湾にて初めて採集の2種の鳥類 鳥第46号 p10-13 内容の概略: アシナガワシを昭和11年12月に高雄州半屏山にて採集.
- 建設省土木研究所環境部緑化生態研究所 希少猛禽類の把握手法に関する調査計画書(案). 建設省土木研究所環境部緑化生態研究所 内容の概略: 希少猛禽類の営巣箇所や生息域, 行動圏等の環境条件等の生息に関するデータを解析し, GISで利用可能なデータベースの構築を行なうために, 関東甲信越地域でオオタカの生息環境や電波発信機を装着して行動圏の追跡調査を行なう.
- 希少フクロウ類研究会 1997 国際シマフクロウ・ワシミミズク・シンポジウム—極東におけるシマフクロウとワシミミズクの現状と保護— 内容の概略: 講演題目 ロシア極東におけるワシミミズクの現状と保護 ロシア極東におけるシマフクロウの現状と保護 北海道におけるシマフクロウの現状 北海道におけるシマフクロウの分布と生息環境 魚の給餌はシマフクロウの暮らしを変えたか?
- 北九州野鳥の会 1978 男女群島 環境庁委託調査 特定鳥類調査 別刷 内容の概略: ミサゴ, ハチクマ, トビ, アカハラダカ, サシバ, ハヤブサ, チゴハヤブサ, チョウゲンボウが記録された
- 北山昭 1996 ねぐら入り前のツバメを襲うハヤブサの観察例. *Jap. J. Ornithol.* 45: 47-48. 内容の概略: 鳥取県福部村と和歌山県日高川でツバメの埒入りを襲うハヤブサを観察した. ハヤブサがツバメを捕食するのを3回観察した.
- 清棲幸保 1933 ノスリ及びハイタカの蕃殖状況 鳥第37号 p118-125 内容の概略: 山梨県須走村におけるノスリとハイタカの巣内ピナの成長を記録した.
- 清棲幸保 1937 日本北アルプス地方に於けるイヌワシの生態に就いて 鳥第44号 p301-306 内容の概略: 昭和12年3月1日に長野県安曇村付近においてイヌワシの巣を発見し, 4月10日に調査した. 巣は松取山のほぼ垂直の岩崖の棚にあった. 巣内には2卵があった.
- 清棲幸保 1955 野鳥撮影紀行(1954) 鳥第66号 p49-56 内容の概略: 長野県松本市付近の島々谷でクマタカの巣の調査や富山県小川温泉付近のミサゴの巣の観察紀行.
- 小林桂助 1949 紅頭嶼より新に記録される鳥2種 鳥第58号 p171-172 内容の概略: 紅頭嶼で5月上旬にサシバが採集されたが, 渡りの途中と考えられた.
- 小林桂助 1953 日本に於けるミサゴの蕃殖について 鳥第62号 p35-40 内容の概略: 1950年から51年における大阪湾のミサゴの観察記録と淡路島山中における巣卵の記録.
- 小堀脩男・小堀政一郎 1998 ニホンジカの幼獣を捕食したイヌワシ *Accipiter* 4: 42-44 内容

- の概略: 栃木県北西部の山岳地に生息しているイヌワシがニホンジカの幼獣を捕食するのを2回観察した。1度は親ジカのそばから子ジカを持ち去った。
- 古賀公也・白石哲 1987 トビの育雛行動。日鳥学誌. 36: 87-97. 内容の概略: 1983年と1984年に長崎県野母崎町でトビの抱雛と給餌行動を調査した。抱雛はおもに雌が行なう。抱雛は雛に幼羽が生え揃う育雛期の40日前後で中止される。給餌は雌の役割で、餌の多くは魚であった。
- 古賀公也・白石哲・内田照章 1989 Growth and Development of the Black-eared Kite *Milvus migrans lineatus*. Jap. J. Ornithol. 38: 31-42. 内容の概略: 4巣9羽のトビの雛の成長と発育を調べた。稠密な幼綿羽は9-12日齢、体羽は18-22日齢で出現した。雛は17-19日齢で両趾で立ち始め、27-31日齢から羽ばたきを始め、45-47日齢で自ら摂餌する。4巣のうち3巣では2羽の雛、1巣で3羽の雛がふ化した。
- 小坂正俊・新井真・遠藤孝一・西野一雄・植田睦之・金井裕 アンケート調査によるオオタカの分布状況。内容の概略: アンケート調査により1993年から1996年のオオタカの分布状況を調べた。279件の回答が得られ、全国の791市町村で生息が確認された。繁殖期にオオタカが生息している場所は672カ所であった。
- 小坂正俊・太田峰夫・植田睦之・佐藤尚弘 1996 静岡県丘陵地帯におけるオオタカの繁殖期行動圏と行動圏内の環境特性(一例報告)。内容の概略: オオタカの観察された行動圏の最大行動圏は288haで、95%行動圏は224%、高利用域の面積は88haであった。行動圏の中で利用頻度が高くなるにしたがって樹木率が高くなった。営巣場所は樹冠が発達し、亜高木層の空間がまばらであった。
- 小坂正俊・鈴木伸・植田睦之 1996 埼玉県岩殿丘陵におけるオオタカの繁殖期行動圏と行動圏内の環境特性。内容の概略: 目視によるオオタカの行動圏調査。行動圏は繁殖ステージが進むにしたがい狭くなった。最大行動圏は364ha、95%行動圏は280ha、高利用域は84haであった。
- 小島幸彦 1992 新潟県魚沼地方において岩壁営巣するノスリの営巣環境 *Strix* 11: 91-98 内容の概略: ノスリの岸壁での営巣の条件として、急斜面にあること、谷底から巣まで100m前後あること、岸壁の前方がある程度開放的であること、直射日光が長時間入らないことを認めた。
- 小島幸彦 1994 サシバの繁殖生態と保護 渥美の自然の講演会記録集6(1994年度) pp. 53-78. 内容の概略: 1977年から80年に大阪府河内長野市で行なった研究をもとにサシバの繁殖生態と保護についての公演要旨。行動圏の面積は雄(3羽)で平均192ha、雌(3羽)で平均143ha。テリトリーの面積は雄で平均112ha、雌で平均63ha。
- 小島幸彦 1994 里山の鷹・サシバの生態と保護 日本野鳥の会会津支部 第2回公開講座資料 内容の概略: サシバはカエルやトカゲ、ヘビなどを食べ、農薬散布によるこれらの食物の現象、減反、ゴルフ場開発などで、サシバは減っている。
- 小島幸彦 1996 栃木県西部の山岳地帯におけるハヤブサの繁殖 *Accipiter* 2: 33-35 内容の概略: 栃木県足尾町の山間部で1982年と1993年、1995年にハヤブサの繁殖を確認した。1995年には4羽の雛が巣立った。
- 小島幸彦 1997 足尾町のハヤブサ *Accipiter* 3: 35 内容の概略: 1996年4月から6月に栃木県足尾町の山間部で3つがいのハヤブサの繁殖を確認した。
- Kojima Yukihiko 1999 Nest Site Characteristics of the Grey-faced Buzzard *Butastur indicus* Jpn. J. Ornithol. 48: 151-155. 内容の概略: 大阪府河内長野市においてサシバの営巣場所の特徴を調査した。営巣木のほとんどは谷の水田や流れから600m以内であったことから、湿った地域の存在が営巣場所の選択に及ぼしている重要な要因と考えられる。営巣木の88%は斜面の中腹から低い部分にあった。
- 小荷田行男 1983 根釧原野の自然 内容の概略: オジロワシとオオワシの越冬状況についての記載あり
- Kostrzewa Renate & Achim Kostrzewa 1991 Winter Weather, Spring and Summer Density, and Subsequent Breeding Success of Eurasian Kestrels, Common Buzzards, and Northern Goshawks. Winter weather, spring and summer density, and subsequent breeding success of Eurasian kestrels, common *The Auk* 108: 342-347. 内容の概略: 繁殖に先立つ冬の天候の状態とチョウゲンボウ、ノスリ、オオタカにおけるテリトリー密度や産卵の割合、繁殖成功についての関わりについて調査した。チョウゲンボウでは産卵するつがいの割合は、冬の気温や積雪に影響され、春のネズミ類の多さにも依存していた。
- 江明道 1984 ワシミミズクの生態およびその保護 (diaoxiao 的生態及其保護) 野生動物(中国)

内容の概略: ワシミズクの四川省における生態 岩などで繁殖. ネズミやノウサギをおもに食べ, キジなど鳥類も食べる. 産卵は12月下旬から3月中旬.

Oliver Kruger & Ulrich Stefener 1996 Nahrungskologie und Populationsdynamik des Habichts *Accipiter gentilis* im ostlichen Westfalen. Vogelwelt 117: 1-8. 内容の概略:

北西ドイツにおいて1980年から1994年にオオタカの採食生態と個体群動態を調査した. 15年間では, 繁殖密度は100・あたり3.6つがいから7.4繁殖つがいで変動した. 年間の繁殖率は, 繁殖つがいあたり若鳥0.5羽から1.8羽であった.

工藤琢磨 1997 Perching Behaviour and Territorial Behaviour of Golden Eagles in Tazawako Town, Akita Prefecture. 日鳥学誌. 45: 201-214. 内容の概略: 1991年2月から1993年7月まで秋田県田沢湖町でイヌワシの行動調査を実施した. 巣内育雛期に観察される止り行動の多くは巣から2km以内にある. この行動は, 巣や営巣中心域の所有の宣言に関する行動の可能性がある.

工藤琢磨・米川洋・池田和彦. 2001. ラジオテレメトリーによるオオタカの位置の測定法. 日鳥学誌 50: 31-36.

熊谷勝 1987 ハヤブサ (カラー自然シリーズ 66) 偕成社 内容の概略: 子供用写真集. 室蘭のハヤブサの生態や行動に関する記載あり.

熊野正雄・木村久吉 1970 白山の鳥類 日本自然保護協会中部支部白山学術調査団編 白山の自然 別刷 p21-275 内容の概略: イヌワシ, ノスリ, クマタカ, オオタカ, ハイタカ, ツミ, トビ, オジロワシ, サシバについて白山における分布状況が記載されている

クマタカ生態研究グループ 2000 クマタカ・その保護管理の考え方 クマタカ生態研究グループ 内容の概略: 鈴鹿山脈におけるラジオテレメトリーによるクマタカの研究から, クマタカの生態を報告するとともに保護管理について言及する. クマタカの体長は雄70.4~72.7cm, 雌74.5~80.5cm. 翼開長は雄138.5~153.5cm, 雌147.0~168.9cm. 体重は雄1.9~2.4kg, 雌2.4~3.6kg

黒田長礼 1926 二種の迷鳥ハゲワシとカツオドリとの就て 鳥第21号 内容の概略: 大正13年12月1日に静岡県で銃獲されたハゲワシの記録.

黒田長礼 1931 The Third lot of Bird-skins from Msnchuria 鳥第32号 p184-187 内容の概略: 北部および南部モンゴルで収集した鳥の標本(羽毛)のリスト. 猛禽類ではトラフズクやコミミズク, コチョウゲンボウ, ノスリ, ケアシノスリ, チュウヒ, ハイイロチュウヒ, ハイタカ, トビが掲載されている.

黒岩哲夫・橋本裕子・西村俊彦・吉本海男・和田雅典・矢野聖・佐藤重穂 1999 高知市におけるハチクマの渡り Strix 17: 119-126. 内容の概略: 高知市で, ハチクマの渡りを1996年秋から1998年春まで観察した. 春は, 3月下旬から5月下旬まで観察され, 5月中にほとんどが渡った. 秋は, 9月下旬から10月下旬頃まで観察され, ピークは9月下旬であった.

黒岩哲夫・橋本裕子・吉本海男・西村俊彦・佐藤重穂 1999 高知県におけるハチクマの繁殖確認 Strix 17: 187-190. 内容の概略: 高知県内で1997年の繁殖期に, 巣自体は発見できなかったものの, ハチクマのディスプレイ飛翔から幼鳥の巣立ちまでを観察した.

黒岩哲夫・西村俊彦・橋本裕子・吉本海男 1998 高知市における春期のサシバの渡り Strix 16: 121-126. 内容の概略: 高知市北部で, 春期のサシバの渡りを1992年から1997年に観察した. サシバの渡りは, 3月下旬から5月下旬まで観察され, 渡りのピークは3月下旬もしくは4月上旬であった. 観察されたサシバの総個体数は, 多い年で8,000羽以上であった.

黒沢令子・ジェイソン・ミントン 1997 日本の猛禽類における死傷及び救護例 ワイルドライフ・レポート (17) 内容の概略: 76.4%は原因が記載されていないが, 原因が記載されているものとしては衝突事故が11.3%で多く, つづいて2.0%の中毒だった. 被害にあう種としてはトビが多く, つづいてノスリ, オオタカ, チョウゲンボウ, サシバの順で, 若い個体が多かった

川本美千夫 1991 人工給餌によるチョウゲンボウの食性調査 Strix 10: 296-300 内容の概略: チョウゲンボウに給餌を行ない, 何を食べるかを調べた.

Kwon, K & Won, P 1975 Breeding biology of the Chinese Sparrow Hawk 山階鳥研報 7:501-522 内容の概略: アカハラダカの8巣の繁殖生態を韓国で調査した. アカハラダカの巣は平均11.7mの地上高にあった. 抱卵期間は19.5日だった卵数は4.1卵で, 雄雌で抱卵した.

平均ふ化率は65%だった. 育雛期間は19.4日だった. 雛の巣立ち率は75.8%だった

極東鳥類研究会 1994 極東の鳥類11ワシ・タカ・スクロウ特集 内容の概略: 目次 オオワシ

の分布と生態 オオワシの生態について ニジネ・プリアムーリエにおけるオオワシの分布、生息数、繁殖生態 クリルスコエ湖（カムチャツカ南部）におけるオオワシの大量越冬 沿海地方沿岸におけるオジロワシの生態

- Liliehalm Robert J., Winifred B. Kessler, Karren Merrill 1993 Stand Density Index Applied to Timber and Goshawk Habitat Objectives in Douglas-Fir. Environment Management 17(6): 773-779. 内容の概略: 山間地域の製材用のダグラスモミの施業管理とオオタカの営巣環境について林業上のガイドラインを提示した. オオタカの営巣に適する樹木は樹齢75年で高さ25mの時、その後樹齢140年で伐採されるまで65年間オオタカの営巣木となる.
- 前橋営林局 1997 オオタカ等の保護と人工林施業等との共生に関する調査研究 内容の概略: オオタカ, ハイタカ, ツミ, ハチクマ, サシバ, ノスリといった人工林や二次林に生息する猛禽類の図鑑的な一般生態の記載. オオタカなどと林業が共存できるようにするために営巣林を持続的に残すようにした林分ごとの伐採サイクルの提案, 海外の事例など.
- 前澤昭彦 1990 サシバの複数雄をともなった繁殖例 Strix 9: 225-229 内容の概略: 1雌2雄でのサシバの繁殖例
- 毎日新聞 1995 光明与えたオオタカ保護 毎日新聞1995.9.28 内容の概略: 学研都市・木津北地区でのオオタカの保護活動が成功したという記事
- 松平頼孝 1922 ハチクマ及サシバに就て 鳥第12号・第13号 内容の概略: 古来鷹匠によって呼ばれているハチクマ(クマタカ若), サシバ(コチョウゲンボウ), コチョウゲンボウについて報告した.
- 松村俊幸 1994 福井臨海工業地帯におけるワシタカ類の出現状況とその環境選択 Ciconia 3: 9-25 内容の概略: 多くのワシタカ類が観察された環境は池または水路と自然草原で, 人工草原, 林, 海浜植物群落でも多く観察された. 水路改変が行なわれた以前と以後の出現頻度はオオタカとチュウヒにおいて有意な減少が, コチョウゲンボウとチュウゲンボウにおいて有意な増加が見られた
- 松村俊幸・久保上宗次郎 1996 福井県におけるイヌワシの1990年以前の生息および繁殖状況 Ciconia 5:47-54 内容の概略: 現地調査と聞き取り情報により福井県におけるイヌワシの過去から現在までの生息および繁殖状況を調査した 1990年以前と1991-1994年では, イヌワシのテリトリー数的には大きな違いがなかったが, 生息ランク(繁殖, つがい確認, 生息・・・など)をくらべると減少していた
- 松村俊幸・門前孝也・加藤晃樹・久保上宗次郎 1992 福井県におけるノスリの繁殖記録 Ciconia 1:29-33 内容の概略: 樹高約10m, 胸高直径48.4cmのミズナラにノスリの巣を福井県内ではじめて確認した. 巣はその4.6mの位置にかけられていた.
- 松村俊幸・門前孝也・加藤晃樹・久保上宗次郎 1992 福井県内におけるノスリの繁殖記録 Ciconia 1:29-33 内容の概略: 福井県大野郡九頭竜ダム湖畔において, 福井県ではじめてノスリの営巣を発見した. クリミズナラ群落内の樹高約10m胸高直径48.4cmのミズナラであった.
- McGrady, Michael J. Mutsuyuki Ueta, Eugene Potapov, Irina Utekhina, Vladimir B. Masterov, Mark Fuller, William S. Seegar, Alexander Ladyguin, Eugene G. Lobkov, Vladimir B. Zykov 2000 Migration and wintering of juvenile and immature Steller's Sea Eagles First Symposium on Steller's and White-tailed Sea Eagles in East Asia: pp.83-90, 2000 内容の概略: 29羽のオオワシの巣立ち雛に衛星追跡用の発信機をつけて巣立ち後の移動を追跡調査した. 渡りの割合は, 1日あたり51.3kmであった. マガダンとアムールで付けられた多くの若鳥は, オホーツク海西海岸沿いに下った. カムチャッカ生まれの鳥は千島列島に渡った.
- McLeod, Mary Anne David E. Andersen 1998 Red-shouldered hawk broadcast surveys: Factors affecting detection of responses and population trends Journal of wildlife management: 62(4): pp.1385-1397 内容の概略: セアカノスリによる鳴き声のテープの再生による個体数調査の確立. セアカノスリではふ化直前や早朝には同種の鳴き声の再生は生息を確認するのに最も効果的な方法である. 同種の鳴き声による確認の確立は平均0.25で既に占有されている地域では100%であった.
- 三重県緑化推進課 1995 三重の自然誌 No.2 オオタカ 内容の概略: 目次オオタカの生態, オオタカの生息環境と現状, あとがき
- 南三陸ワシタカ研究会 1994 徳仙丈山イヌワシ生息状況調査報告書 宮城県委託 内容の概略:

- 徳仙丈山のイヌワシの育雛期の行動圏は1800ha, 非繁殖期は5200ha, 繁殖前期は4000haで, 年間をとおしてだと6700haだった. 巣の周辺の占有している場所から採食地へ移動する場合, 一定の飛行経路を使用することが明らかになった
- 南三陸ワシタカ研究会 1995 入谷イヌワシ生息状況調査報告書 宮城県委託 内容の概略: 宮城県志津川町および東和町の入谷のイヌワシの繁殖状況と行動圏を1995年3月から11か月にわたって調査を行なった. 過去の繁殖成績をしらべると1978年から1995年までに繁殖に成功したのは3年のみだった. 親ワシの交代は頻繁にあった. 育雛期の行動圏は199
- 南三陸ワシタカ研究会 1996 上品山イヌワシ生息状況調査報告書 宮城県調査委託 内容の概略: 1991年に繁殖していることが発見されてから1995年にかけての上品山イヌワシの繁殖の経緯. 1991, 1995年に1羽のヒナが巣立っている. 食物はノウサギが主で, ヘビ, ヤマドリかキジ, ドバト, キジバト, タヌキが記録された. 行動圏面積は6400ha
- 南山城のオオタカを守る会 1991 南山城のオオタカを守る会 全資料 No2 内容の概略: 新聞記事などの資料集
- 三島冬嗣 1960 ハイイロハイタカについて 鳥第76号 p5-9 内容の概略: 北海道や本州, 八丈島で採集された6点をカムチャッカ半島で繁殖するハイタカの1亜種ハイイロハイタカとした.
- 御厨庄治 1991 日野市内でのチョウゲンボウの繁殖初期行動について ゆりかもめ, (432): 19 内容の概略: ビルの換気口でのチョウゲンボウの観察例. ハクセキレイを食べていた.
- 三戸順子 1994 長野県におけるハチクマの繁殖についての小観察 Binos 1: 55-58 内容の概略: 1987年から3年間のハチクマの繁殖生態の記録. 巣はカラマツ林内の直径1.5mのカラマツの高さ12-13mの位置にあり, 毎年2卵, 2羽が育った.
- 宮城県文化財保護協会 1984 翁倉山のイヌワシ 宮城県文化財保護協会 内容の概略: 世界のイヌワシの現状, 日本のイヌワシ, 宮城のイヌワシの現状の紹介のあとに翁倉山のイヌワシの出現状況, 食物(ノウサギ, テン, イタチ, タヌキ, アオダイショウ, ヤマドリ, キジ, キジバト, カケスなど), 営巣環境(樹上が多い)などについて記載されている
- 宮城県環境生活部自然保護課 2000 宮城県猛禽類生息調査報告書 内容の概略: オオワシ, オジロワシ, イヌワシ, オオタカ, クマタカ, ハヤブサ, ミサゴ, ハイタカ, チウウヒについての分布状況についての記載. イヌワシ, クマタカ, オオタカについては生息環境についての解析も行なっている. オオタカは他2種よりも平坦な場所に生息
- 望月和芳・石井悟・山岸良子 1995 横浜市内で記録されたツミの繁殖について Binos 2: 43-52 内容の概略: 住宅地内の23haの公園の雑木林でツミの繁殖を観察した ツミは最初に自分で造巣したが, 最終的にはハシブトガラスの古巣を使用した. 食物はスズメがほとんどで, ヒヨドリとコゲラ, メジロが記録された
- 本村健・関島恒夫・堀藤正義・大石麻美・阿部學. 2001. チョウゲンボウの営巣密度と営巣場所条件および周辺環境の関係. 日鳥学誌 50: 17-23.
- 森要. 2001. 食痕から調査したオオタカの食性. Binos 8: 73-76.
- 森為三 1917 ひげわしノ新産地 鳥第4号 内容の概略: 朝鮮半島江原道三防にて大正5年に採集されたワシはヒゲワシであった.
- 森茂樹 1992 ハチクマの繁殖行動について. 1992年度日本鳥学会大会講演要旨集 pp.42. 内容の概略: 営巣木はスギで胸高直径65cm, 高さ28mで, 高さ約13mのところにも巣がつくられていた. サシバとハシブトガラスから攻撃を受けることはあったがそれらを攻撃することはなかった. 繁殖中の行動に雌雄の相違はないように思われた.
- 森信也 1981 知床半島のオジロワシ・オオワシ・シマフクロウについて 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物編) 内容の概略: オジロワシの営巣木はミズナラ, カツラ, ダケカンバ, トドマツ, エゾマツ. 食物は鳥類と魚類が半々. シマフクロウは, ルサ川, サシルイ川, 岩尾別川に生息していることを報告している.
- 森信也 1983 オジロワシカラー版/自然と科学 29 岩崎書店 内容の概略: 子供用写真集. オジロワシの生態や行動に関する記載あり.
- 森茂樹 1989 賤が岳山頂でのワシタカ秋の渡り かいづぶり 16:2-4 内容の概略: 最も多くのタカがわたるのは9/27~10/1のあいだで, それより早いとハチクマが多くなり, それ以降はハイタカ属, ノスリの割合が高くなる. 渡る時間帯は, 8時と10時に多かった.
- 森本栄・飯田知彦 1992 クマタカの生態と保護について Strix 11: 59-90 内容の概略: クマタカの広島西部での行動圏の面積は平均13.7km²であった. 採食地としての利用頻度は伐採地, 鉄塔管理道, 植林地, 草地, 低木疎林, 林道の順に高かった. 巣間距離は4km前後で, 巣は山塊

- の中～下部にあった。巣はアカマツかモミだった。
- 森本栄・飯田知彦 1994 広島県西部におけるクマタカの営巣環境 *Strix* 13: 179-190 内容の概略: 1982年から1993年にかけて、広島県西部でクマタカの営巣地の環境特性の調査を行なった。営巣地は主峰の標高の中?下部にある谷の下部で、斜面の中?下部に集中する傾向があった。営巣斜面の比高や対岸までの距離、方位には傾向はみられなかった。
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男 オオタカ 内容の概略: 国内外の文献をもとにオオタカの分布、社会行動、繁殖についての概説をまとめたもの。大きさ: 全長♂約47~52.5cm, 平均約50cm。♀約53.5~59cm, 平均56.5cm。翼開張♂約106~♀約131cm。ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北部に分布する。
- 森岡照明・叶内拓也・川田隆・山形則男 1995 図鑑日本のワシタカ類 文一総合出版 内容の概略: 日本の猛禽類の、形態、分布、生態などについてまとめられた本。
- 森岡照明・山形則男・叶内拓哉・川田隆 1992 ワシタカ類飛翔識別ガイド 内容の概略: 日本で記録されている猛禽類の飛翔写真と日本の猛禽類の一年が書かれている。
- 盛岡市教育委員会 1989 天然記念物イヌワシ生息実体調査報告書 盛岡市文化財調査報告書第25集 内容の概略: 盛岡でイヌワシはおもにノウサギをたべており(52.6%), アオダイショウ(15.7%), ヤマドリ(5.2%)がそれにつづく。行動圏の面積は、5回の調査で97~207km²だった。調査回数が少ないために、本当のところはよくわからない。
- 本村健 1995 チョウゲンボウは停空飛翔を行なう時にどうい風力状態を選ぶか *Binos* 2: 21-23 内容の概略: チョウゲンボウは弱風状態で停空飛翔を高い頻度でしていた
- 本村健 1996 繁殖期におけるチョウゲンボウの餌動物別の採餌コストの比較。1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 pp.90. 内容の概略: チョウゲンボウがノネズミ類の採餌に費やした飛行コストは平均971.651, 昆虫類では平均426.994, 小鳥類では平均156.197であった。飛行コストはノネズミ類で最大であるが、得られるエネルギーも高いと考えられた。
- Jack T. Moyer 1953 *Falco peregrinus* Breeding in Niigata Prefecture 鳥第62号 p18-19 内容の概略: 1952年7月1~2日に新潟県南蒲原郡森町村の八木前という崖におけるハヤブサの繁殖を確認した。
- Moyer Jack T. 1959 伊豆諸島殻の鳥類の新記録 鳥第74号 p1-6 内容の概略: 三宅島坪田や阿古地区でのオオワシの記録を報告した。
- 長野県 松本地方事務所 林務課 治山課 松田仁 2000 クマタカの生息区域内における森林整備手法に関する一考察 長野県 松本地方事務所 林務課 治山課 松田仁 内容の概略: クマタカの生息環境の保全に配慮し、生物多様性の向上をめざした森林整備手法を検討した。現存植生の種の多様性には相対照度と深い関係がみられた。相対照度と収量比数の関連を検討し、密度管理図により具体的な施行指針を策定した。
- 中川元 1991 初冬の知床半島・ルシャ地区に於けるオオワシの滞留 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成2年度一 内容の概略: 1990年12月15日に知床半島中央部のルシャ地区でオオワシの調査を行なった。3河川の囲う付近で61羽のワシが確認された。この地域にはサケマスが自由に遡上しているため、この魚類を食物に滞留していると考えられた。
- 中川元 1991 オオワシの渡りのルートに関する考察 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成2年度一 内容の概略: オオワシの渡りの経路にはサハリンから南下してくるものと、カムチャツカから来るものがあると考えられる。サハリン経路の方が早く南下し、遅く北上すると考えられる。
- 中川元 1993 オホーツク海沿岸湖沼における早春のオオワシとオジロワシについて 知床博物館研究報告第14集 17-24 内容の概略: オホーツク海沿岸湖沼における早春のオオワシとオジロワシについて1986, 1990, 1991年に調査した。ワシ類は開水面が広がり水禽類の多い湖沼と漁業活動から食物が供給されている湖沼が多かった。
- 中川元・田沢道広 1991 知床半島における厳冬期のワシ類 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成2年度一 内容の概略: 1991/1~3まで知床半島で定期的にオオワシとオジロワシの数をかぞえると、斜里側では2/20に最大数を記録した。このときは低気圧の影響で斜里海岸に魚類が多数打ち上げられたことと羅臼側の漁が休漁だったので、羅臼側のワシが斜里側に移動してきたと考えられた
- 中川元・田沢道広・大館和宏・石井英二 1991 北海道におけるオジロワシの繁殖状況 環境庁委託調査特殊鳥類調査一平成2年度一 内容の概略: 1990年にオジロワシの営巣状況を調査した調査した3カ所の営巣地では営巣木はハリギリ、ハンノキ、ダケカンバで、巣の高さは地上8.6,

- 19, 15 mだった 北海道東部と北部で最近3年間に営巣した場所は24カ所だった
- 中島欣也 1993 趾の鱗状区画によるワシタカの個体識別と簡便な記録方法. 日本鳥学会大会講演要旨集 1993 pp.70. 内容の概略: ワシタカ類の脚部と趾とを覆う角質膜の鱗状区画が個体毎に多少違いがあり, 年数を経ても変化のないことが確認できた. チョウセンオオタカでは27年間継続観察できた. 飼育個体や剥製の個体識別にも利用できよう.
- 中島欣也・山上隆博 1996 補強改修した巣でのクマタカの繁殖例. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 pp.46. 内容の概略: 岐阜県北西部の山中で, 巣の基部が破損しながらも, クマタカに利用される可能性の高い巣を発見し, 角材や枝などで人為的に補修したところ, 繁殖に利用し5月に白い幼毛の雛1羽を確認するに至った.
- 中島欣也・岡田博和 1999 クマタカとトンネル工事との共存事例 日本鳥学会1999年度大会講演要旨集 内容の概略: トンネル掘削工事現場近傍にクマタカが営巣していたが, クマタカの繁殖行動に合わせて工事を進め, 工事期間中に2年クマタカが雛を育てるのを確認した.
- 中島滋・石原龍雄・中村一恵 1985 アカハラを襲ったツミ 神奈川自然誌資料 6 59-60 内容の概略: アカハラを襲って窓に衝突して死亡したツミの事例
- 中条正英 1979 イヌワシ 日本野鳥の会大阪支部報 68 26-27 内容の概略: 東中国山脈ではイヌワシは10月中旬に巣作りに入り, 2月上旬に2卵を生む40数日間でふかし60-70日で巣立つ
- 中村輝男 1977 東京湾大井埋立地でチョウゲンボウ繁殖 野鳥 42(11): 40-41. 内容の概略: 1976年5月から7月にかけて東京都大井埋め立て地内の倉庫の換気口でチョウゲンボウが繁殖した. ドブネズミ, ハツカネズミ, バッタ, 小鳥類を食物として運んできた. シロチドリ, コチドリのコロニーを襲うところが観察されているので, チドリ類のヒナも食物
- 中村司 1996 過去30年間の山梨における野鳥の生息変化 山梨動物生態研究会「CETTIA」(8): 9-11 内容の概略: チョウゲンボウが従来の繁殖地の崖からいなくなり, 甲府市のビルで繁殖するようになった
- 中村幸雄・中村司 1952 伊豆大島・三宅島より新記録の鳥類について 鳥 (61): 28-30 内容の概略: 三宅村神着にて3月3日にオオタカ1羽を観察. 大島波浮港などで3月6日に観察.
- 奈良県吉野郡川上村立川上中学校理科クラブ 1984 吉野の自然観察の記録 -わが村のクマタカを追って- 内容の概略: クマタカの生態記録
- 梨本真・矢竹一穂・小林卓也・千羽晋示 1999 イヌワシの餌動物としてのノウサギ個体数の推定 -糞粒法を用いた植生タイプ別調査の試み 日本鳥学会1999年度大会講演要旨集 内容の概略: イヌワシの餌動物としてのノウサギの個体数を糞粒法を用いて調査した. 植生タイプでノウサギの利用頻度が異なること, 一つの群落内でも利用形態が異なること, 季節によって利用状況が異なることが示唆された.
- イアン ニュートン 1993 小さなタカに魅せられて アニマ (246): 50-57 内容の概略: イギリスでのハイタカの生態. ハイタカの営巣地は約25-30年の若い林で, そのような林では0.6-0.8kmおきに巣がある. 高齢林では繁殖失敗も多いので, おそらく食物がとりにくいのだろう. 食物はおもに鳥類で, 雄は小型の(5-80g) 雌はより大きい
- 日本鳥類保護連盟 1985 ワシタカ類の保護 内容の概略: 日本に生息している猛禽類とその減少の要因(生息環境の悪化, 農薬, 密猟), そして保護の必要性, 保護のための法令などが書かれている.
- 日本鳥類保護連盟 1995 イヌワシ保護増殖基本計画策定調査報告書 環境庁委託 内容の概略: 九州では10年以上にわたって繁殖に成功していない. それも, 卵がふ化しないことが原因である. イヌワシは2羽目のヒナは死んでしまうことがほとんどなので, この2羽目のヒナを他地域から採取してきて, 九州のイヌワシに育てさせることを提案している.
- 日本イヌワシ研究会 1992 全国イヌワシ生息数・繁殖整効率調査(1981-1990)結果概要一記者発表資料(1992.2.14) - 内容の概略: 1987年のイヌワシの生息つがい数が124で, 1985の118よりも増加した. ただし, これは調査が進んだためで, 既にわかっていた場所だけでは, 減少していた. 地域的に見ると, 東北と北陸が59%とこの地域が日本の中心的な生息域と考えられた. 繁殖
- 日本イヌワシ研究会 1992 イヌワシ保護対策の具体的な施策の計画書 内容の概略: 営巣場所の確保, 棲息地の確保, 餌の供給と確保などイヌワシの保護のために必要なことを記載してある.
- 日本オオタカネットワーク・日本野鳥の会茨城支部 1997 第7回オオタカ保護シンポジウム 内容の概略: 講演内容 千葉県流山市におけるオオタカ保護活動の歩みについて 茨城県南にお

- けるオオタカの営巣調査と保護活動 渥美半島でのタカ類繁殖地保護の取り組み 那須野が原におけるオオタカの生息動向—15年間の記録から— オオタカの巣の青葉について
- 日本自然保護協会 1999 秋田県田沢湖町駒ヶ岳山麓イヌワシ調査報告書 日本自然保護協会報告書79号 内容の概略: 1990年12月から1993年8月まで秋田県駒ヶ岳山麓に生息するイヌワシの調査を行なった。このつがいは1982年に巣が発見されてから、1990年まで毎年繁殖に成功していた。巣作りは12月、産卵は2月上旬、ヒナは3月20日前後にふ化
- 日本通運株式会社・西武運輸株式会社 1997 (仮称) 滝山西地区トラックターミナル開発事業に伴う自然環境調査報告書資料編 内容の概略: オオタカのアセスメント調査が行なわれている
- 日本野鳥の会 1961 チョウゲンボウの人工巣成功 野鳥 26(5): 28. 内容の概略: 松本市中山地区の中山丘陵の崖に径30cm, 奥行き40cmの穴を11個掘ったところ、それまで1つだった巣が年々増え、4年後には6カ所になった。
- 日本野鳥の会 1976 この秋、青空を見に行こうサシバの渡りコースを調べませんか 野鳥 (9): 50-51 内容の概略: サシバの渡り情報募集の案内
- 日本野鳥の会 1977 サシバの渡り—中間報告— 野鳥 42(10): 46-47 内容の概略: 秋にサシバの渡りが見られた日本各地の断片的な記録の紹介
- 日本野鳥の会 1987 Shibaev, Y.V. ソ連におけるオオワシの冬の生息数調査の中間報告 藤巻裕蔵オオワシ日ソ共同調査の結果 第3回日ソ鳥類保護シンポジウム報告書 内容の概略: 1985年と1986年の冬期の調査から、オオワシの総生息数を6000—7000羽と推定した。
- 日本野鳥の会 1995 ウトナイ沼環境保全基本計画検討調査報告書 内容の概略: 生息種リストとして猛禽類も出てくる
- 日本野鳥の会愛知県支部 1989 鷹の渡り in AICHI 1989 内容の概略: 木曾川沿いの愛知県内に6カ所、岐阜県内に8カ所の定点を置いて調査した結果、犬山あたりでは少ないが愛岐大橋では多くなり、そこより南では、さらに多くなった。
- 日本野鳥の会愛知県支部 1990 鷹の渡り in AICHI 1990 内容の概略: 1990年の秋の渡り調査の記録
- 日本野鳥の会愛知県支部 1991 鷹の渡り in AICHI 1991 内容の概略: 1991年の秋の渡り調査の記録
- 日本野鳥の会愛知県支部 1992 鷹の渡り in AICHI 1992 内容の概略: 1992年の秋の渡り調査の記録
- 日本野鳥の会愛媛支部 1989 四国から九州に渡るサシバのルート Strix 8: 125-131 内容の概略: 1988年10月9,10日に四国から九州へ渡るサシバの飛行経路の解明のために、愛媛、高知、大分、宮崎県合同で調査を行なった。四国から九州へ渡るサシバの主な出口は佐田岬ではなく、高茂岬であると推定された。高茂岬を飛び立ったサシバのうち28%しか九州で発見
- 日本野鳥の会愛媛県支部・高知県支部・大分県支部・宮崎県支部 1990 サシバの渡り調査報告(1989) 内容の概略: 1989年10月8日、四国から九州へ渡るサシバの飛行経路を明らかにするため、愛媛、高知、大分宮崎で合同調査を行なった。岩水船舶無線中継所で観察されたサシバは東から飛来し、高茂岬へ飛去した。
- 日本野鳥の会岐阜県支部 1994 1993年 タカの渡り調査報告書 内容の概略: おもにハチクマとサシバについて、秋の渡りの時期と、推定される渡りの経路について記載。
- 日本野鳥の会岐阜県支部 1999 岐阜県のタカの渡り1997年 内容の概略: 1997年の渡り調査の調査結果。おもにサシバ、ハチクマ、ノスリについて。
- 日本野鳥の会岐阜県支部 2000 岐阜県のタカの渡り1999年 内容の概略: 1999年の秋の渡り調査の結果
- 日本野鳥の会宮城県支部 1980 志津川町入谷イヌワシ繁殖基礎調査 宮城県本吉郡志津川町委託 内容の概略: この場所ではイヌワシは樹上に営巣。アカマツやヒメコマツ、モミに営巣。4つがいについて1957年から1976年にかけての繁殖成績が記載されている。
- 日本野鳥の会広島県支部 1982 第2回1981秋ワシタカ調査報告森のたより8号 内容の概略: 1981年秋にワシタカ類(おもにハチクマ)の渡りを調査し、県内の渡りの経路が西方向に山の連なりに沿って移動すること、9:30から14:30に多く渡ることを明らかにした。
- 日本野鳥の会研究部 1984 クマタカ・オオタカ・ハヤブサの生息状況に関するアンケート調査 環境庁委託特種鳥類調査 内容の概略: アンケート調査の結果、クマタカの最低生息数として900-1000羽、オオタカの最低生息数として300-480羽、ハヤブサの最低生息数として110-130羽

があげられた

- 日本野鳥の会群馬県支部 1989 猛禽類 (イヌワシ) 生息調査報告書 内容の概略: 送電線の設置が計画されている群馬県角落山周辺でイヌワシの行動圏について調査を行ない, 送電線建設による影響の予測などを行なった.
- 日本野鳥の会盛岡支部 1996 盛岡市におけるイヌワシ営巣地の盛岡市・(財) 日本野鳥の会による買い上げの経過について 内容の概略: 野鳥の会が土地を買いあげて保護することになったイヌワシの営巣地の買い上げの経緯および今後の管理の計画
- 日本野鳥の会大分県支部 1992 20周年記念誌 20周年記念誌 内容の概略: 数回行なったクマタカ, イヌワシ, タカの渡りの調査状況の記載
- 日本野鳥の会十勝支部 1983 北海道十勝地方におけるオジロワシとオオワシの分布 Strix 2: 53-58 内容の概略: 1975-83の十勝地方のオオワシとオジロワシの分布について調べた. オジロワシは9月には海岸部に飛来し, 12月からは河川沿いや内陸にも飛来し, 2, 3月に個体数が最大となった. オオワシは12-4月に小数が海岸沿いに飛来した. オジロワシは成若ほぼ同数だった
- 日本野鳥の会山口県支部 1982 第1集 第1回 ワシタカ類の渡りに関する調査報告 内容の概略: 1982年秋期に行なった山口県のハチクマとサシバの渡りの調査. 渡りの方向や時間, 天候などについての記載がある.
- 日本野鳥の会山口県支部 1990 第6集 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書 内容の概略: 山口県の鳥類の分布調査. 各種猛禽類の分布状況とともに, 資料編としてトビの地上営巣例の記載がある.
- 日本野鳥の会山口支部 1992 ハヤブサの人工構造物での営巣について 山口野鳥 第25号 内容の概略: 山口県小野田発電所の煙突の支柱での営巣記録. 2羽が4月にふ化し, 7月には幼鳥は営巣地から姿を消した.
- 日本野鳥の会山口支部 1993 窓硝子に衝突したツミ 山口野鳥 (26) 内容の概略: 2階北側の窓にあたったツミの雌の記載
- 日本野鳥の会長崎支部ハチクマ・アカハラダカ渡り調査グループ 1990 タカ類の渡り調査記録 内容の概略: おもにハチクマとアカハラダカの1990年春, 長崎県での観察記録
- 日本野鳥の会奈良支部 1982 奈良県付近におけるサシバの渡りについて (中間報告) 内容の概略: 奈良県内ではサシバは真西の方向へ移動すると考えられた. 渡りは濃霧に被われたり雨天の日には行なわれないと考えられ, 強風の日も渡らないようである.
- 日本野鳥の会栃木県支部 1982 栃木県北部地域における猛禽類の繁殖状況 内容の概略: 1975-1982にかけての千本松, 三島, 黒磯におけるオオタカの巣作り, 産卵, ふ化の時期と巣立ちビナ数の記録あり. 野崎における同様のチョウゲンボウの記録も.
- 日本野鳥の会栃木県支部 1983 栃木県における大型猛禽類の分布 栃木県における大型猛禽類の分布 内容の概略: 各種猛禽類の県内の分布状況の記載
- 日本野鳥の会徳島県支部 1980 タカの渡り1980年秋 日本野鳥の会徳島県支部報 (27) 内容の概略: サシバの渡り経路には, 今まで知られていた鳴門海峡から徳島県に入ってくる経路のほか, もっと南側から入ってくる経路があることが示された.
- 新潟県農林部治山課 1972 新潟県におけるワシタカ, ハヤブサ, フクロウ類の分布調査報告書 p5 内容の概略: 新潟県で記録されたタカ類のリストと繁殖年齢, 食物など凶鑑的な情報が記載されている. オオタカについては繁殖記録は東蒲原郡津川町の大船山のアカマツの樹上で記録されているのみであると記載されている.
- 新潟県野生鳥獣生態研究会 1978 古川弘・山本明: ミサゴの営巣とその観察 曾我信男: 紫雲寺町におけるトビの生活 新潟県野生鳥獣生態研究会会報 (4) 内容の概略: 5/31~7/19のミサゴの営巣の観察記録 トビの営巣分布とペリットを使った食物分析. ほ乳類と鳥類が食物として多く, ほ乳類ではネズミ, モグラが主で, 鳥類では種不明が多かったが, 判定できたものではニワトリが多かった. ウミスズメの4例あった.
- 新村正俊・中村昌義・北川捷康 1980 静岡県西部地区におけるワシタカ類—1979年秋期の渡りの様相を中心として— 遠州の自然 (3) 内容の概略: 静岡県においてサシバは十月上旬を中心に, 中旬にかけて多くが渡る. 渡りの経路は丘陵部を飛ぶ日や平地部を飛ぶ日があり, おそらく天候によって経路を使い分けていると考えられる. ハチクマの渡りはそれより早く9月下旬から十月上旬である.
- 新谷保徳・山崎亨・上古代吉四・川崎敦子 1993 屋久島におけるクマタカ *Spizaetus nipalensis*

- の生息調査 内容の概略: 1992/12/29-1993/1/1 に行なった屋久島でのクマタカの生息調査. クマタカの生息は確認できなかった. 調査期間が短いので断言はできないが, 生息していないのは, 島の面積がクマタカ個体群をささえるのに十分でないことが考えられた
- 西田功 1962 北九州にて見られたハチクマの渡り 鳥 (79/80): 201-204 内容の概略: 小倉市足立山におけるハチクマの渡りの観察記録. 1961年9月23日に約1500羽のハチクマの渡りを確認した.
- 西垣外正行・小海途銀次郎・和田貞夫・奥野一男 1971 クマタカの営巣習性について 山階鳥研報 6:286-299 内容の概略: 1957-1969年の大阪, 奈良, 和歌山の県境の産地でクマタカの調査を行なった. 1-2月に繁殖の兆候が現れ, 巣作りに要する日数はおよそ30日, 自らの古巣を利用することがあり, 巣には樹幹, 樹頂, 枝先の3つの型があり, 大きさは直径150-180cmのほぼ円形
- 西野正義 1980 武具池オジロワシ十余年の記録 茨城県立水戸第一高校紀要第18号 別刷 内容の概略: 武具池では1966年からオジロワシが観察され, オオワシやイヌワシも観察されたが1980年にはほとんど観察されることがなくなってしまった.
- 大館和宏 1991 紋別周辺のオオワシとオジロワシ 環境庁委託調査特殊鳥類調査—平成2年度— 内容の概略: 紋別市周辺の湖沼で1985/1~1991/2までオジロワシとオオワシの個体数を数えた. 数の多い時期は春4月上~中, 秋11月上~中であり, 最大は1990年4月4日のオオワシ88羽, オジロワシ16羽不明5羽の合計109羽だった.
- Ogi, H. & Miyashita, T. 1991 Sighting a Gyrfalcon in the Sea of Okhotsk 山階鳥研報 23:20-21 内容の概略: 55° 10' N, 149° 37' Eのオホーツク海海上でシロハヤブサを観察した.
- 大分県野鳥友の会・日本野鳥の会大分県支部・日本鳥類保護連盟大分県支部 1984 黒岳周辺におけるイヌワシの生息状況調査について (その1) 内容の概略: 大分県黒岳での1984/2~10の調査でイヌワシはずっと記録された. 九州では過去何回もイヌワシの観察例があるが, 周年の生息ははじめて確認された
- オジロワシ・オオワシ合同調査グループ 1991 オジロワシ・オオワシ一斉調査1991年の結果について 環境庁委託調査特殊鳥類調査—平成2年度— 内容の概略: 1991年2月17日と3月10日に北日本の渡来地でオオワシとオジロワシの一斉調査を行なった. 2月17日は低気圧の影響で調査範囲が限定されたが, 3月10日はオオワシ182羽, オジロワシ148羽, 不明49羽が記録された.
- 奥野一男 1979 猛禽を追ってクマタカの生態 日本野鳥の会大阪支部報 68 23-26 内容の概略: クマタカの棲息地はだいたい4km四方で営巣林はアカマツ林が多いが, 杉林もつかわれる. 営巣木はアカマツが多く, スギやモミにも営巣する. 産卵は3月中旬までに行なわれ1卵のみである. 45日ほど抱卵する. 巣立ちは70日目くらい.
- 奥野一男 1979 南大阪近辺のワシカ類 日本野鳥の会大阪支部報 68 6-9 内容の概略: 南大阪近辺のワシカ類 トビ:繁殖, サシバ:繁殖, ハチクマ:繁殖, ミサゴ:12-13年前までは繁殖, 現在は不明. ツミ:繁殖, ハイタカ・オオタカ:繁殖の可能性あり, クマタカ:繁殖, イヌワシ:繁殖記録無し
- 小野勝弘・中川元 1991 オホーツク海沿岸におけるオオワシの南下について 環境庁委託調査特殊鳥類調査—平成2年度— 内容の概略: オオワシは11月にオホーツク海沿岸地方を南下し, 知床半島基部から先端方向に向かった. 渡りには西~北西の季節風, 段丘縁の上昇気流が関係していることが推測された.
- 太田正俊・鈴木伸・新井真・西野一雄・黒沢令子・加藤七枝・福井和二 1999 日本オオタカネットワーク研究誌 2 日本オオタカネットワーク 内容の概略: アンケート調査によるオオタカの繁殖失敗事例, 食べ残しの骨による餌鳥類種の特異性, 落下したオオタカ雛の保護, 冬期におけるオオタカの東京湾での観察の4編を収録.
- 太田真也 1969 熊本県下に落ちたクマタカ 野鳥 (275): 4-5 内容の概略: 弱ったクマタカをつかまえて動物園に送った記録
- オオタカ保護基金・日本野鳥の会栃木県支部・静岡オオタカ研究会 1996 第6回オオタカ保護シンポジウム報告書 地域環境計画とオオタカ保護 内容の概略: 掲載内容 地域生態環境計画 生き物と共生する環境づくり 地域環境の中のオオタカ 一点観察法によるオオタカの行動圏調査 埼玉の丘陵部におけるオオタカの営巣・生息環境について 東京都八王子市川口地区におけるオオタカの生息環境について
- オオタカ密猟対策委員会 1984 狭山の森から オオタカ密猟監視報告'83 内容の概略: 狭山丘

陵でのオオタカ密猟監視の目的と 83 年度の活動の記載

- 小沢典夫 1964 校舎に巣を作ったチョウゲンボウ 野鳥 29(6): 32-34 内容の概略: 松本市菅野中の軒の穴に営巣したチョウゲンボウの観察記録 食物として, スズメ, イソシギの死骸を発見した.
- 朴永根・李茂夫・元柄許 1975 アカハラダカの繁殖生活史 山階鳥研報 7:523-532 内容の概略: 1973/6/24-7/31 に韓国でアカハラダカの生活史を調査した. 一腹卵数は 5 卵で, 抱卵は雄雌で行なった. ふ化から巣立ちまでは 21 日で, 1 日平均 16.6 回, 巣に出入りした. 食物は両生類が 91.35% で残りが鳥類だった. 両生類ではカエルが主であった.
- Petty Steve J. Understanding the Impact of Large-scale Afforestation on Raptors in the Uplands of Britain: An Overview of Some Recent Research and Implications for forest management. Raptors and Afforestation. 内容の概略: 英国の森林面積は, ここ 75 年で 2 倍以上に増加している. 植林に利用されている樹種は北西アメリカ産のモミの 1 種で, 英国固有種ではない. 広範囲に外来種で植林された森林が伐採適齢期になっている.
- Petty, Steve J. Marc J. Bechard, Noel Snyder 1997 希少猛禽類生態研究会セミナー希少猛禽類の保全について. 財団法人ダム水源地環境整備センター 内容の概略: (1) 大規模な植林が英国高地の猛禽類に与える影響の把握について, S. J. Petty 英国における最近の森林性猛禽類の研究の目的は大きく 3 つに分類される. 1, 植林によって生まれた新しい生息地にどのように猛禽類が適合してきたかということに関する調査:
- ロイド グレニス, デリック ロイド [著], 高野伸二 [訳] 1973 猛禽類 主婦と生活社 内容の概略: 世界の猛禽類の一般的な生態と図鑑
- 阪上和男 1995 蒼鷹 南山城のオオタカを守る会 内容の概略: 写真によるオオタカ巢内雛の日齢の変化を示す.
- 西播愛鳥会 1987 タカ類渡り調査報告書— 1986 年秋季— 内容の概略: 1986 年秋の姫路での猛禽類の渡り調査の記録
- 関功 1998 栃木県烏山町周辺的那珂川におけるミサゴの越冬記録. Accipiter. 4: 35-48. 内容の概略: 栃木県茂木町から烏山町的那珂川では冬期 1~2 羽のミサゴが毎年越冬している.
- 関川実・遠藤公男・田鎖巖・佐々木宏 1984 岩手県三陸海岸におけるハヤブサの調査 環境庁委託特殊鳥類調査 (昭和 58 年度) 別刷 p29-35 内容の概略: 1983/6 - 1984/1 の岩手県三陸海岸での調査の結果, 21 カ所で 32 羽のハヤブサを確認した. 岩手県全体だと, 25 - 31 羽が繁殖していると推定された. 釣り人が近づき親鳥が警戒声をあげるなど, 人の影響が心配された.
- 関山房兵・田村剛・遠藤公男・小原徳応・佐藤博実 1995 北上高地におけるイヌワシ *Aquila chrysaetos* の繁殖率の変動. 1995 年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集 pp. 44. 内容の概略: 1972 年から 26 つがい 275 例のイヌワシの繁殖巣を調査した. 繁殖成功率は 1980 年までは個体群維持の下限 40% を維持したが 1990 年以降は急低下している. 生涯生産仔数や繁殖率は針葉樹人工林や人工草地のテリトリー内の比率と負の相関を示した.
- 柴田敏隆 1985 ワシタカの保護 動物と自然 15(6): 7-11 内容の概略: ワシタカの保護のため密猟の禁止, 巣台の設置, 育たない小さいヒナの人為的な養育, 人工ふ化などをあげた.
- 滋賀県野鳥の会 1996 森茂樹: ハチクマ子育て日記 14- 駒井隆広: 冬期における猛禽類の出現状況 17-20 かいづぶり (23) 内容の概略: ハチクマの営巣の記録. 給餌した食物としてはカエル類が多かった.
- 重田芳夫 1974 東中国山地のイヌワシ 東中国山地自然環境調査報告 pp. 106-140 内容の概略: 1963/6 から 1973/12 にかけて東中国山地で行なったイヌワシの調査の記録. 10 つがい以上の情報をもとにしている.
- 重田芳夫 1974 東中国山地のイヌワシ 東中国山地自然環境調査報告: pp. 106-140. 内容の概略: 東中国山地におけるイヌワシの生息状況調査の結果. 調査地では 22 つがいのイヌワシを確認した. 生活圏の占有領域は 225ha から 600ha である. 採食地の面積はあるつがいでは合計 1100ha, 別のつがいでは 1325ha と算出している.
- 重田芳夫 1978 太田池・犬見川地区に生息するイヌワシ調査報告 大河内地点自然環境実態調査報告書: 別刷 p. 99-108. 内容の概略: 兵庫県神崎郡大河内町の犬見川及び太田池に揚水発電ダム建設に伴う環境調査. 犬見川地域では 1976 年から 1977 年には繁殖しなかった. この地域で繁殖しなかった理由としては, 庭石採取による人為的騒乱, ダム工事による発破作業が考えられる.

- 篠田耕児・松木洋・矢田浩一郎 1994 富山県におけるハヤブサの繁殖初記録 *Strix* 13: 254-255
 内容の概略: ハヤブサは、富山県では、従来、冬鳥として渡来するとされてきた。しかし、1988年頃から年間をとおして記録されるようになり、繁殖の可能性も示唆されてきた。そして1993年に県西部においてはじめてハヤブサの繁殖が確認された。
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ 1992 ワシタカ類渡り調査報告書—1991秋期— 内容の概略: 1991/9/15～10/8まで長野県白樺峠でタカの渡りの調査を行なった。確認したワシタカは9種で、サシバとハチクマの総個体数は7505羽だった。今回の調査では渡りの開始時期と終了時期を確認することはできなかった。
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ 1994 ワシタカ類渡り調査報告書—1993年秋期— 内容の概略: 長野県内の1993年秋のワシタカ類の渡りの観察記録と、考えられる長野県内の渡り経路について考察。
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ 1993 ワシタカ類渡り調査報告書—1992年秋期— 内容の概略: 1992年秋の長野県での猛禽類の渡りの記録
- 白木彩子 1993 北海道で繁殖するオジロワシの営巣環境。日本鳥学会大会講演要旨集 1993 p. 27。
 内容の概略: オジロワシはアカエゾマツを営巣木としてよく利用したが、トドマツはあまり利用されなかった。営巣場所の構造の特徴のひとつとして、林縁的な立地条件であるか、林内であれば周囲の樹冠から突出して高い優勢木が存在することが重要。
- 白木彩子・中川元・松尾武芳・青木則幸・山本純朗 1996 オジロワシ (*Haliaeetus albicilla*) 幼鳥の出生地からの分散および出生地周辺地域における幼鳥・亜成鳥の分布と利用餌資源。
 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 p. 87。内容の概略: 1992年から1995年に20羽の巣内雛にカラーリングを付け、7羽に小型電波発信機をつけて巣立ち後の移動、分散を調べた。15個体のうち巣立ち後1年以上経過した後に調査地域内で確認されたのは9個体であった。
- 自然保護局野生生物課 1996 「猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカ)」について 自然保護局野生生物課 内容の概略: イヌワシ等絶滅のおそれのある猛禽類の保護方策について、環境庁が現段階の知見に基づき報告としてとりまとめた。猛禽類の現状と保護対策の基本方向を示す
- 静岡オオタカ研究会 1997 静岡県猛禽類棲息状況調査を進めるために 内容の概略: どのような調査をしようと考えているかのまとめ オオタカ(できればサシバとハチクマ)が県内にどれくらい生息しているのかを調べ、繁殖地の環境を調べて、保護のための指針をつくることを目的としている。4×5kmに区切ったメッシュで調査を行なう予定
- 静岡オオタカ研究会 1999 平成10年度静岡県猛禽類生息状況調査報告書 静岡県環境部自然保護課委託 内容の概略: オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ツミ、サシバの分布状況 オオタカについては、低地で繁殖している。巣立ちヒナ数は平均1.13で、他県の記録よりも少ない。産卵時期は西部では4月中旬、東部では下旬と場所による差がある。営巣木はスギ、つづいてシイが多い。
- 柴田匡敏・伊藤正美・青木進・坂本康・長尾信一・藤田京子 1991 大規模送電線工事がイヌワシにおよぼす影響? 生息地放棄のメカニズム? *Strix* 10: 115-126 内容の概略: ヘリコプターによる送電線設置作業へのイヌワシの忌避行動が観察され、この工事によると推定される繁殖の中断が2年つづき、繁殖地は放棄された
- Snyder Noel F. R. General Principles in Designing Raptor Conservation Programs. Wildlife Preservation Trust International. 内容の概略: 希少猛禽類の活力ある野性個体群を造り維持するために、おもに3つの取組がある。(1)効果的な個体数のモニタリング法の計画と運用、(2)個体数限定要因の本質と重要性を見極めるための包括的な研究、(3)当該種に影響を及ぼす特徴的な限定要因を打ち消すための研究
- 曾我信男 1980 トビの車窓(列車)センサスと海岸センサス 新潟県野生鳥獣生態研究会会報(5): 10-12 内容の概略: 電車からのトビのセンサスをした。都市部に少なく、水田部で多少多く、海岸で多かった。
- 水資源開発公団 1998 ダム事業における希少猛禽類保全対策指針(暫定案)の紹介 水資源開発公団 内容の概略: 水資源公団による希少猛禽類の保全対策についての方向性をまとめたもの。
- 水資源開発公団 1998 ダム事業における希少猛禽類保全対策指針(イヌワシ・クマタカ)(暫定案) 水資源開発公団 内容の概略: 水資源公団による希少猛禽類の保全対策についての方向性をまとめたもの。
- 鈴木正利・立花繁信 1991 南三陸におけるイヌワシの繁殖状況と巣内雛の死亡 *Aquila*

- chrysaetos (8): 10-12 内容の概略: 1989, 90年とこのイヌワシのつがいのヒナはふ化後3週齢で死亡した。1991年のヒナは順調に発育していたが、6月下旬より翼や尾羽の伸長が鈍くなり、羽ばたき練習もあまりしなくなった、さらに嘔吐が目撃された後7/7に死亡した。
- 鈴木伸 1990 オオタカ *Accipiter gentilis* の巣における兄弟殺しの観察 *Strix* 9: 230-231 内容の概略: 1番最初にふ化したオオタカの雛が最後にふ化した(4番目)雛をつつき殺した例。
- 鈴木貴志 1999 北海道十勝平野におけるオオタカの営巣環境 *Jpn. J. Ornithol.* 48: 435-444, 1999 内容の概略: 営巣林20ヵ所の植生構造を調べた。12ヵ所は孤立林、防風林と山林がそれぞれ4ヵ所。営巣林の立木密度は、オオタカが営巣していなかった40ヵ所の林より有意に低かったが、胸高直径と胸高断面積には営巣林と非営巣林で差はなかった。
- 鈴木透・金子正美・前川光司. 2001. ランドスケープレベルにおける潜在的なハビタットを予測するためのモデリングの手法: 北海道に生息するクマタカ (*Spizaetus nipalensis*) によるケーススタディー. 国際景観生態学会日本支部会報 6: 53-56.
- 斜里町立知床博物館 1990 オジロワシとオオワシ 斜里町立知床博物館 内容の概略: オオワシとオジロワシについての骨格や羽毛など形態的な部分, 世界的な分布, 繁殖生態や食性など, 図鑑的な生活史についての情報が記載されている。
- 橋映州・関幸良 1990 石川県白山原生林におけるツミの繁殖 *Strix* 9: 232-233 内容の概略: 白山原生林でツミはイヌシデの地上約20mの位置に巣をつくっていた。食物はネズミ類とシジュウカラの幼鳥を確認した。
- 立花邦夫[文], 立花勢智子[絵] 1996 生命の讃歌、トビのひなよ空高く舞いあがれ 立花邦夫、立花勢智子 内容の概略: 小説
- 立花繁信 1955 ケアシノスリの飼育 *鳥* (66): 40-43 内容の概略: 1954年12月7日に宮城県桃生郡飯野川町で負傷したケアシノスリ1羽が保護され、筆者が飼育した。サンマやカイウサギ、クマネズミなどが餌として与えられた。
- 立花繁信 1955 東北で初めて記録されたイヌワシの繁殖地 *野鳥* (173) 内容の概略: 昭和30年に宮城県桃生郡北上村字大上で、東北地方ではじめてイヌワシの繁殖を確認した。この巣はアカマツの樹上にあり、使用後数年はたっていると思われた。巣にはノウサギの骨が少なくとも6個、キジの骨もみつかった。
- 立花繁信 1987 落下イヌワシ雛の保護 *日本イヌワシ研究会誌* (5). 内容の概略: 巣が落下して死亡したイヌワシのヒナ2羽を回収した。トリコモナス症に感染していた
- 立花繁信 1992 宮城県に於けるイヌワシの生息・繁殖状況 *日本イヌワシ研究会誌* 第9号別刷 内容の概略: 宮城県でのイヌワシの生息は奥羽山系で6例、北上山地で24例と多く記録され、平地部はわずか4例である。営巣地は3ヵ所知られており、そのうちの1つ翁倉山では1955年以来、37年で27回の繁殖に成功しており(73%)、繁殖成績は良い。
- 立花繁信・三浦孝夫 1988 北上山地南部における幼鳥期イヌワシについての2,3の観察 *日本イヌワシ研究会誌* No.6別刷 内容の概略: 例1: イヌワシの幼鳥は巣立ち後少なくとも1か月の期間は林内の地上にいたことが多かった。巣立ち後2週ではじめて飛行しているところを見た例2: 巣立ち後10日までは、巣立ち時に着陸した場所を中心に6haの範囲内で生活し、その後、巣から450m離れた
- 高田武夫 1956 富士山麓に於けるツミの蕃植に就て *鳥* (67): 25-27 内容の概略: ツミの日本における繁殖を始めて報告したもの。静岡県須走村滝ノ村, 1954年5月27日, 同小山町西山, 1954年8月14日に観察。
- 高木昌興・高橋満彦 1997 スズメ目鳥類3種のトビの巣における営巣記録 *Strix* 15: 127-129 内容の概略: トビが就巢中の巣を19巣, 古巣を26巣確認した。そのうちトビが営巣中の10巣において、その巣の下部にできた巣材と巣材の隙間に9つがいのスズメ, 1つがいのニューナイスズメ, 1つがいのハクセキレイの営巣を確認した。
- Takagi, M., Ueta, M. & Ikeda, S. 1995 *Accipiters Prey on Nestling Birds in Japan* *J. Raptor Res.* 29(4):267-269 内容の概略: オオタカとツミがモズやヒヨドリ, ハトの巣内ヒナを捕食した記録
- 高橋松人[著], 日本野鳥の会三重県支部[協力] 1995 オオタカ(三重の自然誌_2) 三重県緑化推進課 内容の概略: オオタカの1年を, 写真で紹介している
- 高松良 1922 信州にて獲りたる二種の鳥類 *鳥* (12/13) 内容の概略: 大正7年3月14日に長野県飯綱山付近で採集されたケアシノスリの記録。
- 武田恵世 1989 日本列島におけるタカの渡り *Strix* 8: 35-123 内容の概略: サシバの渡りは10

- 月上旬で、日本列島南岸ルート、近畿中央ルート、山陽ルートの存在が考えられた。ハチクマの渡りは9月中旬から下旬で、近畿中央-山陽-九州北部ルートの存在が考えられた。
- 武田恵世・山中久次・前澤昭彦・土井賞貞 1993 三重県伊賀地方における繁殖期のワシタカ科鳥類の生息分布. 日本鳥学会大会講演要旨集 1993 pp. 26. 内容の概略: 三重県伊賀地方で繁殖期にワシタカ科の生息調査を行なったところ、サシバ、ハチクマ、オオタカ、ツミ、ハヤブサの生息を確認した。10年前と比較するとサシバとハチクマは約1/2、トビは約1/5に減少した。
- 竹中健 1997 シマフクロウに対する市民の認知度についての一考察 知床博物館研究報告第18集 9-14 内容の概略: シマフクロウは北海道内外の一般人に知られている。しかし誤った情報がや先入観が先行しているところも見受けられ、正しい情報の普及と間違った認識の修正が、今後の保護のために重要と考える
- 竹中万紀子・竹中健 1995 Predation on Grey Starlings *Sturnus cineraceus* by Peregrine Falcons *Falco peregrinus* in downtown Sapporo. Jap. J. Ornithol. 44: 67-69. 内容の概略: 札幌市の中心街でムクドリの時周りでムクドリを襲うハヤブサが観察された。ムクドリは時に強い執着を示し、襲われるにもかかわらず時を放棄しなかった。
- 玉田克巳・宇野裕之 1999 釧路管内内陸部におけるオオワシとオジロワシの生息状況 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 内容の概略: 北海道釧路管内内陸部の白糠町庶路川流域と茶路川流域、阿寒町の阿寒川流域で1998~1999年の冬期に40~70kmのオオワシとオジロワシロードセンサスを行なった。庶路川流域ではオオワシが12月~1月には3~10羽、2月には63羽、3月には18羽、4月には2羽が記録された
- 但野春治 1993 カラーアルバム 鳥 オジロワシ・オオワシ・トビ 誠文堂新光社 内容の概略: 子供用写真集。
- 栃木県林務観光部林政課 1986 栃木県ワシタカ科保護対策調査報告書 栃木県ワシタカ科保護対策調査報告書 内容の概略: 各種猛禽類の県内の分布状況の記載。チョウゲンボウ、オオタカ、クマタカについてはより細かい記載あり。
- 東條一史 1993 わかってきた日本での生態-富士山麓ハイタカ観察記 アニマ(246): 58-60 内容の概略: ハイタカはほかの猛禽類と違い、青葉ではなくアカマツの樹皮を敷いていた。雛は4羽で雌が抱雛し、雄が食物を運んできていた。ハイタカの繁殖にとって雨が大きな影響を与えるようだった。食物はミソサザイからカケスまで鳥類が多かった。
- 東條一史 1992 ハイタカの営巣行動と採食習性. 1992 年度日本鳥学会大会講演要旨集 p. 43. 内容の概略: 3年間の営巣木は1年がカラマツ、2年がアカマツだった。食物は大部分が鳥類で、ミソサザイからカケス・トラツグミの大きさまでわたったが、ツグミ以下のもの大部分だった。巣への食物の運搬回数は最高9回、最低1回、平均5.6回だった。
- 東京電力㈱ 1988 山梨東線新設工事に伴う特殊鳥類生態調査 (その1) - 工事による影響予測調査報告書 - 内容の概略: 送電線設置予定地に繁殖しているイヌワシのアセスメント調査
- 東京電力㈱ 1989 山梨東線新設工事に伴う特殊鳥類生態調査 (その1) - 送電線完成後の影響予測調査報告書 - 内容の概略: 送電線設置予定地に繁殖しているイヌワシのアセスメント調査
- 東京営林局森林管理部 1995 オガサワラノスリ希少野生動物種保護管理対策調査報告書 内容の概略: オガサワラノスリは父島、母島、兄島、弟島、西島、南島、東島で生息。父島には14つがいの行動圏が少なくともある。
- 東京都多摩動物公園 1999 多摩動物公園飼育研究会報告集第28集 内容の概略: イヌワシの飼育下での繁殖に成功した
- トラストサルン釧路 1995 達古武沼生態調査報告書-釧路湿原・達古武沼の水鳥類の生息と、その生態系の特徴及びカヌーなど人による利用の影響と集水域の自然環境について- 内容の概略: カヌーによるレジャー利用がオジロワシに悪影響を与えることを記載した。
- 内田博 1999 オオタカ雌の行動生態 日本鳥学会 1999 年度大会講演要旨集 内容の概略: 発信器を付けたオオタカ雌の行動追跡。オオタカ雌4個体では、翌年同じ場所で繁殖したのは50%であった。雌では非繁殖期に繁殖地から離れた場所で一定の期間生活した。
- 内田博 2001 ノスリ若齢個体の越冬期の行動 Strix 19: 49-54 内容の概略: 埼玉県中央部の丘陵地でノスリの幼鳥の行動圏を発信機を装着して追跡した。ねぐらは丘陵地の針葉樹林内にとられたが、採食はおもに河川敷で行なわれた。12/8~30は1.4km²の範囲内にとどまっていたが、1/16には12km離れた場所で再発見された。
- 宇田川竜男 1953 Supplements to the Reports on the Avifauna of Japan 鳥(62): 25-29 内

- 容の概略：九州におけるサシバの渡りについて調査した。大隅半島を通過する大群は都城平野の東半部で群れを組むことがわかった。
- 上村孝 1989 茨城県菅生沼におけるワシタカ類 Strix 8: 145-150 内容の概略：1979-1988 の茨城県菅生沼の猛禽類の記録をまとめた。オオタカは多種にくらべて記録頻度が高く、ノスリは近年増加していた。
- 植田睦之 1991 都市近郊でツミを見るには—ツミの生態と行動— 日本の生物 5(1) 別刷 内容の概略：東京でツミはスズメやシジュウカラをおもに食べて生活している。5月上旬に抱卵を開始し、5月下旬から6月上旬にふ化する。そして6月下旬から7月上旬に巣立ちする。オオタカ、ハイタカ、ツミの生態の違いについても述べている
- 植田睦之 1992 ツミ *Accipiter gularis* にとって都市近郊の緑地はよい環境か??都市近郊と山地部の採食環境の比較? Strix 11: 137-141 内容の概略：ツミの食物となる小型鳥類は、従来の繁殖地の低山帯と比べて市街地の方が多かった。この豊富な食物のために、ツミが市街地で繁殖が可能になったと考えられる。
- 植田睦之 1992 ツミ *Accipiter gularis* が繁殖期に捕獲する獲物数の推定 Strix 11: 131-136 内容の概略：ツミの東京近郊における食物はスズメとシジュウカラが多かったが、最大ではドバトが確認され、ネズミ類やアブラゼミも確認された。ツミは育雛期に170羽、繁殖期を通してでは350羽程度の小鳥類が必要と推定された。
- 植田睦之・Jason Minton 1993 カンムリワシの採食環境。日本鳥学会大会講演要旨集 1993 p. 54. 内容の概略：カンムリワシの採食環境として、(1) 水田のような湿った草地で採食する、(2) 林縁部の樹上にとまり林縁で採食する、(3) 山裾の平地に採食地があることがわかった。
- 植田睦之 1993 繁殖期にツミが捕食する獲物の季節変化?シジュウカラの被捕食率の変化とシジュウカラの巣立ち時期との関係? Strix 12: 81-84 内容の概略：シジュウカラは、5月中旬にツミに頻繁に捕食された。この時期はちょうどシジュウカラの巣立ちの時期にあっていた。この時期のシジュウカラの巣立ち数は最も多く、全体の51.9%を占めていた。
- 植田睦之 1994 ツミの防衛行動がなくなった場合のオナガの繁殖成功率 Strix 13: 205-208 内容の概略：ツミの巣の周囲に集まってきて繁殖しているオナガは、ツミによる巣の防衛がなくなると、数日間ですべての巣が捕食をうけ、繁殖に失敗した
- Ueta, M. 1997 Nesting-Tree Preference and Nesting Success of Japanese Lesser Sparrowhawks in Japan J. Raptor Res. 31(1):86-88 内容の概略：ツミはアカマツを営巣木として選好し、アカマツで営巣した場合は他の樹種に営巣した場合と比べて繁殖成功率が高かった。アカマツの若い木が、現在少ないことを考慮すると、将来的に営巣木の不足が予想される。
- 植田睦之 2000 カササギがオオワシの巣の周囲に営巣する頻度の地域差 Strix 18: 65-69. 内容の概略：オオワシの巣の周囲に営巣するカササギの営巣頻度には大きな地域差が認められた。カムチャツカ東海岸ではほとんどのオオワシの巣の周囲でカササギの営巣が確認されたのに対し、西海岸ではほとんど記録されなかった。
- Ueta M. 2000 Changes of distribution in Japanese Lesser Sparrow hawks and their possible causes Asian Raptor Research & Conservation Proceedings the Symposium on Raptor of Asia: pp. 358-362. 内容の概略：東京におけるツミの繁殖成績を1990年以前と1991年以降で比較したところ、1990年以前に繁殖を開始した場所のほうが1991年以降に繁殖を開始した場所より巣が落ちて繁殖失敗する割合が少なかった。
- 植田睦之 2001 ハシブトガラスの増加がツミの繁殖へおよぼす影響 Strix 19: 55-60 内容の概略：東京都中西部の緑地でハシブトガラスがツミの繁殖に与える影響を調査した。1991～1992年と2000年のハシブトガラスの個体数を比較すると、毎年ツミが繁殖を行なっている1か所の緑地では、両者のあいだには有意な差は認められなかった
- 植田睦之・青木雄司・小坂正俊 神奈川県平塚におけるオオタカの営巣環境と行動圏の利用状況。内容の概略：神奈川県中西部に位置する大磯丘陵で1996年3月から5月に一つのオオタカを調査した。総行動圏面積は418.75haであったが、実際はもっと広いと考えられた。営巣木は樹高22m、胸高直径30.6cmのスギで、地上高16mに営巣した。
- 植田睦之・平野敏明 1999 ツミのつがい外交尾の観察 Strix 17: 173-176. 内容の概略：東京と栃木で1699回のつがい交尾を観察した。東京では3回、栃木では1回のつがい外交尾の試みが観察され東京の1回で交尾が成立した。
- 植田睦之・小坂正俊・福井和二 1999 秋期のオオワシとオジロワシの分布に影響する要因 Strix

- 17: 25-29. 内容の概略: オオワシとオジロワシの秋期の分布に影響する要因について北海道オホーツク海沿岸の河川で, 1995年, 1997年に調査を行なった. 観察された両種の食物はすべてサケの死体で, サケの死体の分布と両種の分布には強い正の相関が認められた.
- 植田睦之・小坂正俊・福井和二・E. G. Lobkov・加藤和明 1996 オオワシの秋期の分布と越冬地の現状. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 p.88. 内容の概略: 羅臼ではスケトウタラの漁獲量の減少にともなって個体数が減少した. サケのような自然の食物の増加をはかることがオオワシの保護に重要.
- Ueta, M., Sato, F., Lobkov, E. G., & Mita, N. 1998 Migration route of White-tailed Sea Eagles *Haliaeetus albicilla* in northeastern Asia IBIS 140: 684-696 内容の概略: オジロワシの渡りの衛星追跡調査. 北海道から春はサハリン経由で繁殖地のカムチャツカへ, 秋は千島列島経由で北海道へ来ることが明らかになった.
- Ueta, M., Sato, F., Nakagawa, H. & Mita, N. 2000 Migration routes and differences of migration schedule between adult and young Steller's Sea Eagles *Haliaeetus pelagicus* Ibis 142: 35-39 内容の概略: 北海道で越冬するオオワシはおもにサハリンからオホーツク海西部沿岸にかけて繁殖すると考えられる. 成鳥に比べて若鳥は渡りをする時期が遅く, 成鳥はまだ氷に被われて採食条件の良くない時期に繁殖地にわたっていることが明らかになった
- 卯木達朗 1975 妙義山のイヌワシ 野鳥 (34) 内容の概略: 1974年, 妙義山でイヌワシを発見した. 崖の岩穴で繁殖していて, 2羽が巣立った. その発見と調査の苦労談.
- 馬田勝義 1996 佐世保市烏帽子岳におけるアカハラダカの秋の渡り. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集 p.91. 内容の概略: 1989年から1995年まで秋のアカハラダカの渡りの調査を実施した. 1995年には52658羽を確認した. 秋の渡りのピークは9月10~15日である. 出現時間は8時, 11時, 13時にピークがあった.
- 和歌山県立日高高等学校 1982 HARMAS Vol.24 内容の概略: サシバの渡りについての記事あり
- 和歌山県立日高高等学校 1983 HARMAS Vol.25 内容の概略: ワシタカ調査を行なったことについての記事あり
- 和歌山県立日高高等学校 1984 HARMAS Vol.26 内容の概略: ワシタカ調査を行なったことについての記事あり
- 和歌山県立日高高等学校生物部 1985 HARMAS Vol.27 内容の概略: ワシタカの渡りについての記事あり
- 和歌山県立日高高等学校生物部 1986 HARMAS Vol.28 内容の概略: ワシタカ調査を行なったことについての記事あり
- 和歌山県立日高高等学校生物部 1988 HARMAS Vol.29 内容の概略: ワシタカの渡りについての記事あり
- 渡辺央 1977 信濃川大河水分水の鳥類 新潟県野生鳥獣生態研究会会報 (3): 5-6 内容の概略: オジロワシとオオワシの冬期の飛来状況の記載あり
- 渡辺通・石部久・伊藤卓夫 1984 新潟県上川地域におけるクマタカの生息状況 特殊鳥類調査 (1984) 環境庁別刷 内容の概略: 新潟県上川地域で1983/5-1984/1にクマタカの分布についての調査を行なった. クマタカを2つがい確認した. また, 亜成鳥も確認し, この地域で繁殖しているものと考えられた.
- Watson, James W. David W. Hays, D. Jhon Pierce 1999 Efficacy of Northern Goshawk Broadcast Surveys in Washington State Journal of Wildlife Management: 63(1): 98-106 内容の概略: オオタカの鳴き声を流して, オオタカの反応を調べたところ, テリトリーを占有している40か所のうち37か所で少なくとも1回は発見された. 幼鳥の方が成鳥より著しく反応した. 発見率は調査者の巣からの距離と相関関係にあり100mの距離で最も高かった.
- 八重山野鳥の会 1972 西表島の自然の危機を訴える 内容の概略: カンムリワシが(密猟のため?)減ってきていることを記載
- 八重山野鳥の会 1972 寒露の使者“サシバ” 内容の概略: サシバが南西諸島でツギヤという捕獲やぐらで捕獲されていることを記載
- 山家英視・阿部功之・大町芳男・小笠原高. 2003. 人工巣によるオオタカ営巣地誘導の試み. 山階鳥類学雑誌 35: 1-11.
- 山田律雄・柴田匡敏・渡辺明夫・新井真 1984 安倍山系におけるクマタカの生息状況 昭和58年特殊鳥類調査 (1984) 環境庁 (写) 内容の概略: 1983/7から1984/1まで, 静岡県安

- 倍山系でクマタカの分布を調査した。クマタカは人間の生活圏と近い位置でも記録された。ブナやミズナラなど落葉広葉樹林が中腹以上に存在する地域に生息する傾向が見られた。 3
- 山本兆司 2000 鹿児島県甌島列島下甌島におけるハチクマの渡り Strix 18: 99-103. 内容の概略: 四国地方から九州地方以西へ移動するハチクマが、主要な経路と考えられている五島列島方向へ移動するのかは明らかにされていない。そこで、九州西部から東シナ海へと渡る別の経路が存在するのでは、という仮説のもとに、その渡りの経路にあたりと想定される甌島で調査を行ない、ハチクマの渡りを小数ながら観察した
- 山本純郎 1979 フクロウの仲間 日本野鳥の会大阪支部報 (68): 10-22 内容の概略: 日本に生息するフクロウ類の生態などを記載
- 山階芳麿 1940 台湾産鳥類数種に就て 鳥 (50): 665-672 内容の概略: 台湾におけるカザノワシの記録についての報告。鷹司氏によって報告されたアシナガワシとされたワシはカザノワシで、現時点 (昭和 15 年) ではアシナガワシは記録されていない。
- 横山美津子・渡辺央 2001 新潟県長岡市の信濃川に渡来するオジロワシの越冬生態 Strix 19: 31-41 内容の概略: 1997-2000 の 3 越冬期にわたって、オジロワシの越冬生体を調査した。渡来は 11 月中下旬、渡去は 3 月中下旬だった。行動圏は信濃川沿いの約 10km にわたったが、特に河畔林の発達した 1.7km の区間の利用頻度が最も高かった
- 米川洋・川辺百樹 1997 オオタカ *Accipiter gentilis* の子殺し 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 (19): 49-54 内容の概略: 北海道のオオタカでの第 1 ヒナおよび第 2 ヒナがつついて半殺しにした第 4 ヒナを親鳥が殺して給餌した例。
- 吉居瑞徳・吉居清 1992 伊勢のタカ渡り Strix 11: 233-243 内容の概略: 伊良湖を通過したサシバの 20-30% が伊勢市を通過していた。10 月上旬の日本上空にきた高気圧が太平洋側に抜けて天気は崩れはじめる日に伊勢市の上空を多数のタカ類が渡った。
- 吉川雄次郎 1932 朝鮮の鷹隼に就て 鳥 (33/34): 340-347 内容の概略: 朝鮮半島におけるタカ狩りの状況についてまとめた。オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ノスリ、ハヤブサが用いられた。
- 由井正敏 1996 ワシタカ類の保護 生物技術者連絡会第 4 回資料「生物調査におけるワシタカ類など腫れ物的貴重種の対応について」 内容の概略: イヌワシ、クマタカ、オオタカについて、一般的な生態、調査方法とデータ整理の仕方、保護対策の考え方など、アセスメントに必要なとされる内容についての講演のレジメ